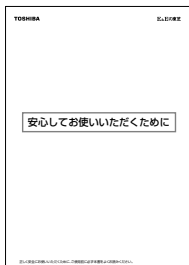
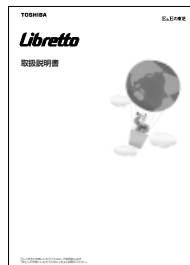
マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

パソコンをお取り扱いいただくための注意事項について
ご使用前に必ずお読みください。

取扱説明書（本書）

- Windowsのセットアップ
- 基本機能
- モバイル活用法
- 周辺機器の接続
- 困ったときは
- 再セットアップ

オンラインマニュアル

「パソコンの操作で困った」「こんなことがしたい」「アプリケーションソフトの使いかたを知りたい」「用語の意味を知りたい」。
こんなとき、パソコン上で検索できる「オンラインマニュアル」があります。
知りたいジャンル別にさまざまな情報を見ることができます。

1. [スタート] ボタンをクリック→[オンラインマニュアル] をクリックする

[検索] タブで知りたいことのキーワードを入力すると、情報を検索することができます。

アイコンをクリックすると、情報を見ることができます。

もくじ

はじめに

本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が添付の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。よくお読みください。

本書は、次のきまりに従って書かれています。

記号の意味

⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡する、あるいは重傷(じゅうしょう)を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害(しょうがい)*1 を負ったり、物的損害*2 の発生が想定される内容を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下をおこさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っておくと便利な内容を示します。
用語	覚えておくと役に立つ用語を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 他のマニュアルへの参照の場合…『　』 オンラインマニュアルへの参照の場合…《　》

*1　傷害(しょうがい)とは、治療(ちりょう)に入院や長期の通院を要しない、けが・やけど・感電などをさします。

*2　物的損害とは、家屋・家財にかかわる拡大損害を示します。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム………………………… 特に説明がない場合は、ご使用になるオペレーティングシステム（OS）を示します。
本製品のシステムは、Windows 2000 です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

……………………………………… アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows 2000 ………… Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版を示します。

MS-IME ………………………… Microsoft® IME2000 を示します。

記載について

- インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- 本書に記載している画面は、実際に表示される画面と異なる場合があります。

Trademarks

- Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Crusoe、Transmeta は、米国およびその他の国における Transmeta 社の商標または登録商標です。
- Intel は、Intel Corporation の登録商標です。
- Ethernet、Fast Ethernet は富士ゼロックス株式会社の登録商標または商標です。
- Adobe Acrobat は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- McAfee、VirusScan は、米国法人 Network Associates, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。
- 駅すぱあとは、株式会社ヴァル研究所の登録商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。
本製品の電源を入れた状態で、[スタート] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックするとご覧になれます。

お願い

・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。
・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみご利用いただけます。
・ご購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。
・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、お使いの機種を確認後、お近くの保守サービスにご依頼ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

お使いになる前に本体同梱のお客様登録カードに必要事項をご記入のうえ、返送してください。
保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1章
セットアップ

Windows のセットアップ

ここでは、パソコンを使えるようにするための Windows のセットアップを行います。
セットアップには約 10 分かかります（作業時間は人によって多少異なります）。
1 度 Windows のセットアップをすれば、次からは電源を入れてすぐにパソコンを使うことができます。

セットアップを始める前に、『安心してお使いいただくために』を必ずお読みください。特に電源コードや AC アダプタの取り扱いについて、よくお読みになり、注意事項をお守りください。

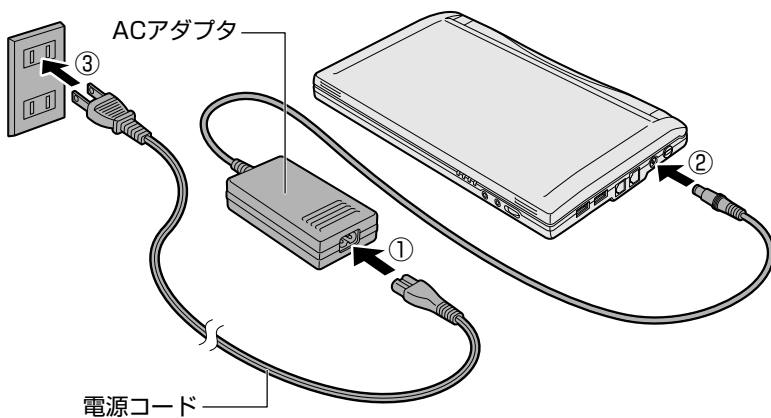
1 セットアップをするときの注意

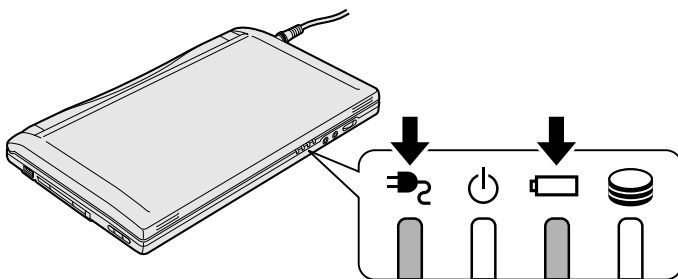
●周辺機器は接続しないでください
　セットアップは AC アダプタと電源コードのみを接続した状態で行なってください。セットアップが完了するまでプリンタ、マウスなどの周辺機器は接続しないでください。

●途中で電源を切らないでください
　セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障の原因になります。

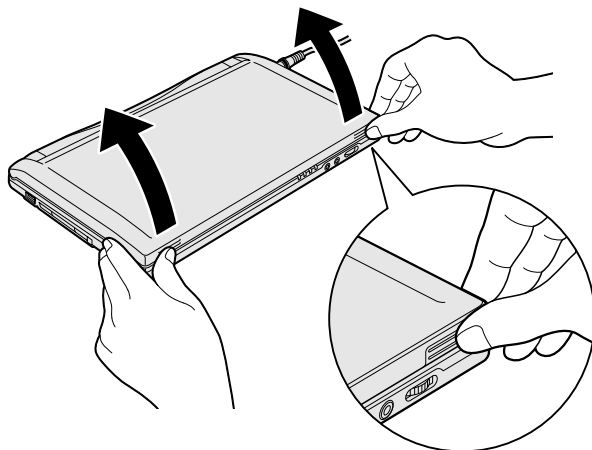
●操作は時間をあけないでください
　セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。30 分以上アキュポイントⅡやキーを押さなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。もう 1 度表示するには、Shift キーを押すか、アキュポイントⅡを動かしてください。

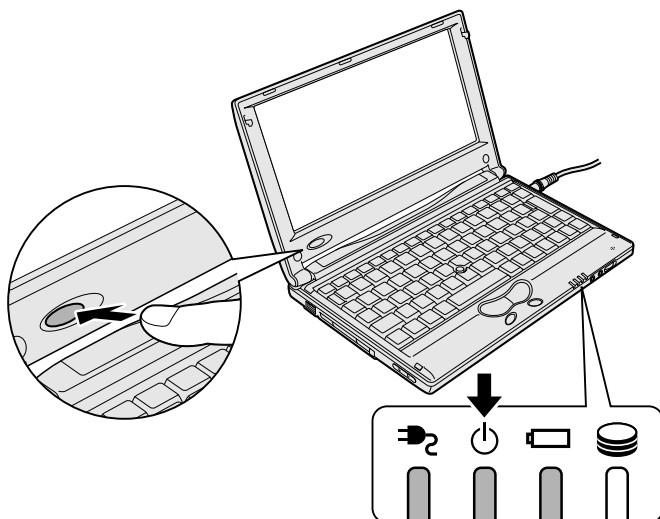
2 電源コードとACアダプタを接続する

電源コードと AC アダプタの接続は、次の図の①→②→③の順に行います。
はずすときは、逆の③→②→①の順で行います。

■ 接続すると

DC IN LED が緑色に点灯します。また、Battery LED がオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

3 電源を入れる

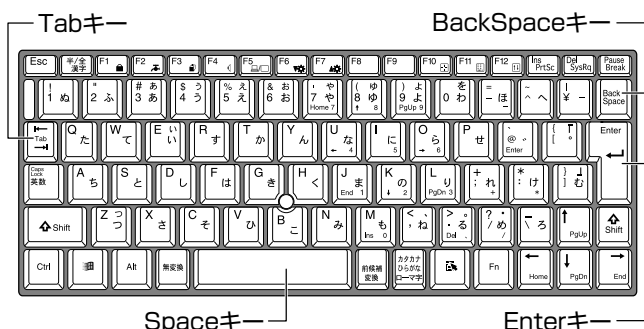
1 パソコンの液晶ディスプレイを開ける

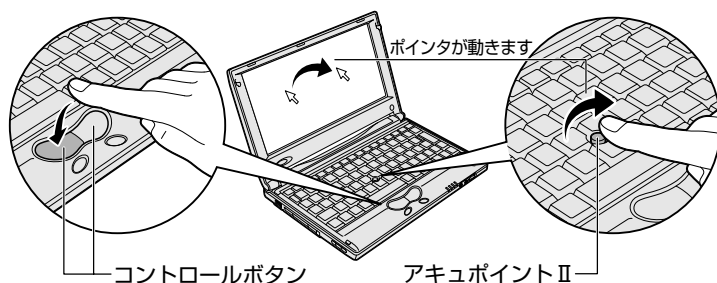
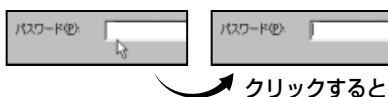
ディスプレイの両端にある「2 本線」に指をかけると、楽に開けることができます。

2 電源スイッチを押す

Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。

4 セットアップをする

セットアップには、キーボード、アキュポイントⅡ、コントロールボタンの操作が必要です。

■ 使用するキー

セットアップ手順で使用するキーは、次のキーと文字キーです。

■ アキュポイントⅡとコントロールボタンの使いかた

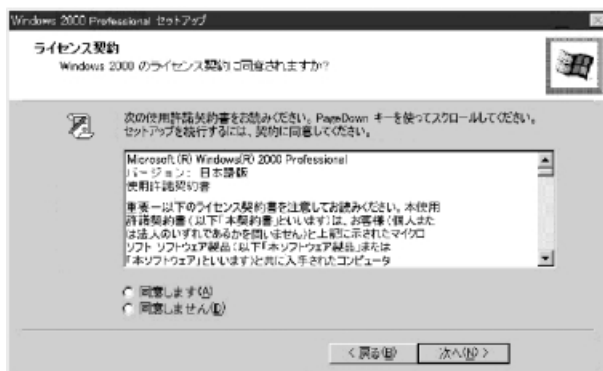
アキュポイントⅡに指を置き、押さえながら前後左右に動かします。手の動きに合わせてディスプレイ上の「 」（ポインタ）が動きます。コントロールボタンの左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。

を文字入力欄に合わせて「クリック」すると、「｜」（カーソル）が表示され点滅します。「｜」の位置から入力できます。

セットアップの操作手順

次の手順に従ってセットアップを行なってください。

- 初めて電源を入れると、セットアップイメージが正しいかを確認するために、「CHKDSK」が実行されます。
  ファイルシステムの異常が検出されたわけではありませんので、問題なくご使用いただけます。

初めて電源を入れると、[Windows 2000 セットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。

1 [次へ] ボタンをクリックする

[ライセンス契約] 画面が表示されます。
契約の内容を必ずお読みください。
表示されていない部分を見るには、▲▼ボタンをクリックして、画面をスクロールさせてください。なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。

2 画面下部の［同意します］をチェックして［次へ］ボタンをクリックする

● ［同意しません］を選択した場合は、次にパソコンを起動したとき、最初からセットアップをやり直す必要があります。

［ソフトウェアの個人用設定］画面が表示されます。

3 名前と組織名を入力する

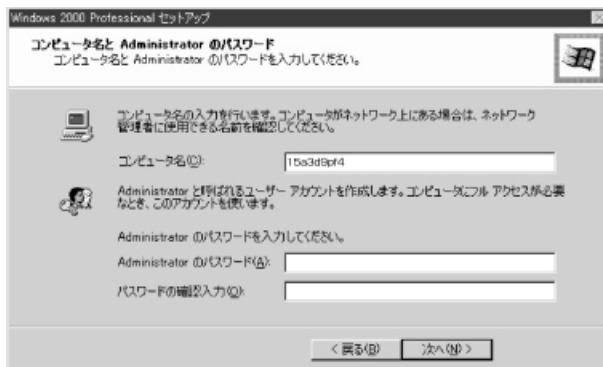
名前は必ず入力してください。組織名は省略できます。組織名を入力するには、名前の入力後(Tab)キーを押します。

● 日本語入力システムが起動しています。
ひらがなや漢字の入力のしかた
標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。
例：“なかた”または“中田”と入力する場合

1 (N)(A)(K)(A)(T)(A)とキーを押す
“なかた”と表示されます。入力ミスをした場合は、(BackSpace)キーを押して入力ミスした文字を削除します。

2 ひらがなのままでよい場合は、(Enter)キーを押す
“なかた”で確定されます。
漢字に変換する場合は(Space)キーを押し、目的の漢字が表示されたら、(Enter)キーを押す
(Space)キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。
(Enter)キーを押すと、選択した漢字で確定します。

4 ［次へ］ボタンをクリックする

［コンピュータ名と Administrator のパスワード］画面が表示されます。

5 コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力する

コンピュータ名は自動で作成されます。変更する場合は、半角英数字で 15 字以内の名前を入力してください。

Administrator と呼ばれるユーザ名を作成します。コンピュータにフルアクセスする場合に使用します。パスワードには、半角の英数字および記号を使用することができます。

- パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。例えば、「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

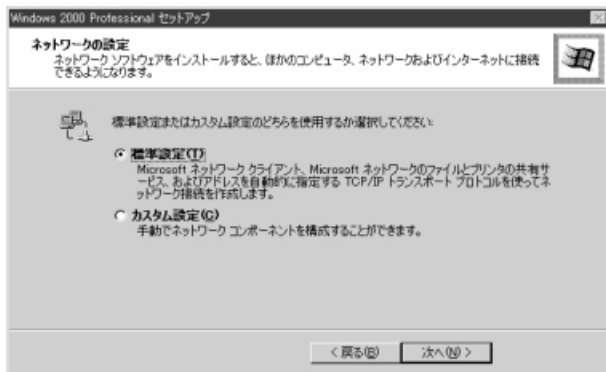
6 ［次へ］ボタンをクリックする

［日付と時刻の設定］画面が表示されます。

7 ［日付と時刻］の設定をする

日付と時刻を確認します。
タイムゾーンで「(GMT+09:00）大阪、札幌、東京」が選択されていることを確認します。
「(GMT+09:00）大阪、札幌、東京」が選択されていない場合は▼ボタンをクリックし、一覧から選択してください。

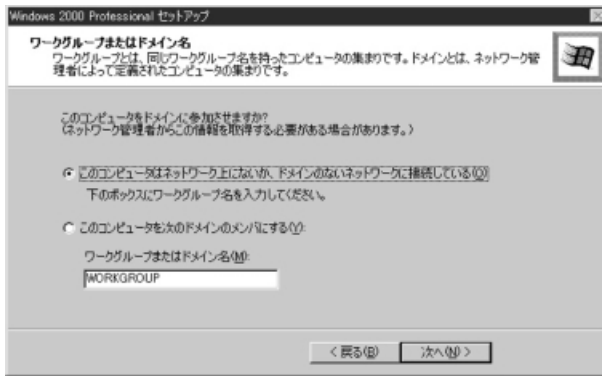
8 ［次へ］ボタンをクリックする

［ネットワークの設定］画面が表示されます。

9 ネットワークの設定をする

標準設定またはカスタム設定のどちらかを選択してください。

- 標準設定：Microsoft ネットワーククライアント、Microsoft ネットワークのファイルとプリンタの共有サービス、アドレスを自動的に指定するTCP/IP トランスポートプロトコルを使ってネットワーク接続を作成します。
- カスタム設定：手動でネットワークコンポーネントを構成することができます。

10 ［次へ］ボタンをクリックする

［ワークグループまたはドメイン名］画面が表示されます。

11 ワークグループまたはドメイン名の設定をする

ワークグループまたはドメインのどちらかを選択してください。選択後、［ワークグループまたはドメイン名］にワークグループ（ドメイン）名を入力してください。

12 [次へ] ボタンをクリックする

設定の保存後、[Windows 2000 セットアップウィザードの完了] 画面が表示されます。

13 [完了] ボタンをクリックする

再起動します。再起動後に [ネットワーク識別ウィザードの開始] 画面が表示されます。

ここで、コンピュータをネットワークに接続する手続きをします。

14 [次へ] ボタンをクリックする

[このコンピュータのユーザー] 画面が表示されます。

ネットワーク識別ウィザード

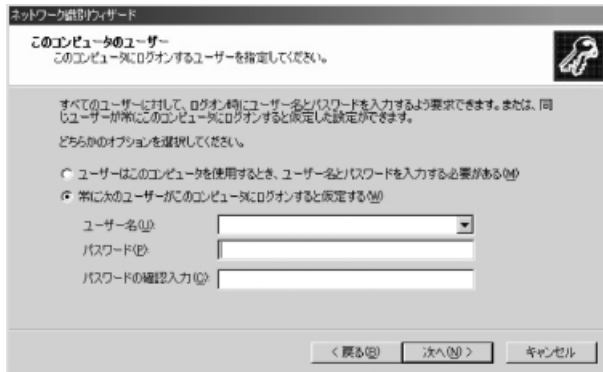
このコンピュータのユーザー
このコンピュータにログオンするユーザーを指定してください。

すべてのユーザーに対して、ログオン時にユーザー名とパスワードを入力するよう要求できます。または、同じユーザーが常にこのコンピュータにログオンすると仮定した設定ができます。

どちらかのオプションを選択してください。

○ ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある(M)
◉ 常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する(W)

ユーザー名(U):
パスワード(P):
パスワードの確認入力(C):

< 戻る(B)　次へ(N) >　キャンセル

15 ユーザの設定をする

このコンピュータで使用するユーザを指定します。

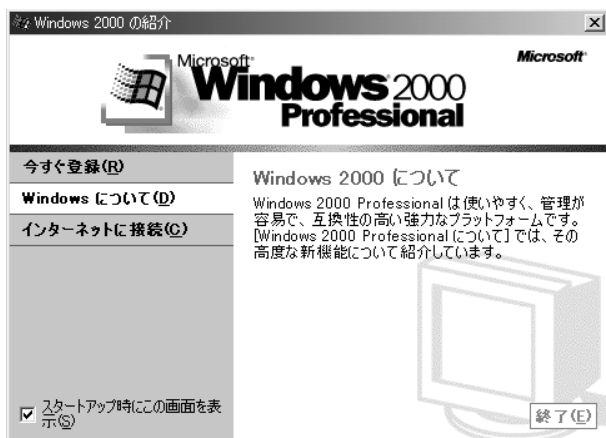
● [ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある]
…指定したユーザでパスワードを入力してからログオンします。

● [常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する]
…指定したユーザで自動的にログオンします。
ここで指定できるユーザは手順３で入力した名前、あるいはAdministrator です。
▼ボタンをクリックして選択してください。

16 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク識別ウィザードの終了] 画面が表示されます。

17 [完了] ボタンをクリックする

Windows 2000のセットアップを完了しました。
手順15で[ユーザーはこのコンピュータを使用するとき…]を選択した場合、[Windowsへのログオン]画面が表示されます。Administratorパスワードを入力して、[OK]ボタンをクリックすると、Administratorでログオンし、[Windows 2000の紹介]画面が表示されます。
手順15で[常に次のユーザーがこのコンピュータに…]を選択した場合、指定されたユーザ(Administratorまたは例:中田)で自動的にログオンし、[Windows 2000の紹介]画面が表示されます。

(表示例)

- [Windows 2000の紹介]の下部にあるチェックボックス(スタートアップ時にこの画面を表示)をクリックしてチェックを解除すると、次にWindows 2000が起動したときは[Windows 2000の紹介]は表示されません。
  [Windows 2000の紹介]画面を再表示するには、[スタート]-[プログラム]-[アクセサリ]-[システムツール]-[はじめに]をクリックしてください。
- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
  Cドライブ:NTFSシステム
- 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行なってください。

ユーザ登録について ➲「本章 2 ユーザ登録をする」

● 再セットアップを行うときには、CD-ROM ドライブ（別売り）が必要です。本製品では次の CD-ROM ドライブを使用できます。
・CD-ROM ドライブ（型番：PA2671UJ、PA2673UJ）
・CD-R/RW ドライブ（型番：PACDR002）
上記以外の CD-ROM ドライブをお使いになる場合には、「標準システムインストール起動ディスク」が必要です。あらかじめ作成しておくことをおすすめします。

詳細について ➲「7 章 4 標準システムインストール起動ディスクを使う」

■ Windows の使いかた

Windows の使いかたについては、『クイックスタートガイド』、または［スタート］-［ヘルプ］をクリックして、『Windows のヘルプ』をご覧ください。

ユーザ登録をする

1 東芝へのユーザ登録

Libretto をお使いになるにあたって、お客様へのサービス・サポートを充実させるために東芝へのお客様登録をおすすめしています。
東芝パソコンをさらに便利に使っていただくためのノウハウやホットな情報を提供する会員専用 Web ページの閲覧や、新商品やイベント情報のご案内などの特典があります。

登録は、インターネットまたは同梱されている「登録はがき」で行います。

インターネットで登録する場合、インターネットに接続するための設定を行なった後、次のアドレスを入力して、表示された画面から登録してください。

http://www5.toshiba.co.jp/tpmc/nkhh.htm

2 その他のユーザ登録

マイクロソフト社へのユーザ登録

登録すると、Windows 2000 など、Libretto に用意されているマイクロソフト社製品の今後のサービス・サポートを受けることができます。
登録は、インターネットまたは同梱されている「登録はがき」で行います。

インターネットで登録する場合、インターネットに接続するための設定を行なった後、次の手順で行なってください。

1. ［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［はじめに］をクリックする
2. ［今すぐ登録］をクリックする
3. 表示される画面に従って登録を行う

その他のアプリケーションのユーザ登録

Libretto にはさまざまなアプリケーションが用意されています。
各アプリケーションのユーザ登録については、各アプリケーションのヘルプをご覧ください。
また、各アプリケーションのお問い合わせ先ついては、「付録 6 アプリケーションのお問い合わせ先」をご覧ください。

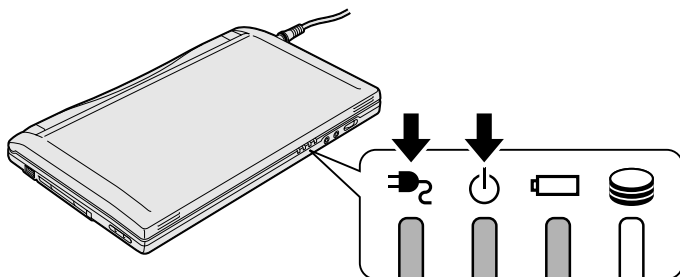
2章
電源を入れる／切る

電源を入れる

ここでは、Windows セットアップを終えた後の、電源の入れかたについて説明します。

参照 初めて電源を入れるとき ➲「1 章 セットアップ」

電源に関する表示

電源の状態は次のシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。
電源に関係のあるインジケータとそれぞれの意味は次のとおりです。

	状態	パソコン本体の状態
DC IN LED	緑の点灯	ACアダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告 ACアダプタ、バッテリ、またはパソコン本体の異常
	消灯	ACアダプタを接続していない
Power LED	緑の点灯	電源ON
	オレンジの点滅	スタンバイ中
	消灯	電源OFF

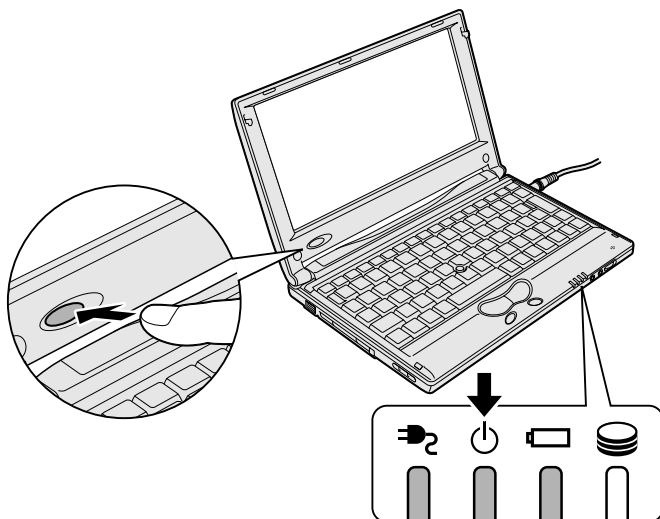
● **LED（エルイーディー）** ● 発光ダイオードのこと。電流を流すと、種類によって赤、オレンジ、緑、黄、青などの光を発光する。消費電力が小さいため ON ／ OFF などの表示ランプによく使われる。

電源を入れる前に

●フロッピーディスクドライブ（別売り）を接続している場合は、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入ったままになっていないか確認してください。入っていれば取り出してください。
●プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を入れてください。

操作手順

1 電源スイッチを押す

Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。

Window が起動します。
パソコンの設定によっては、メッセージが表示されます。

2 電源を切る

パソコンには電源を切る手順があります。
正しい手順で電源を切らないとパソコンが故障したりデータが壊れる原因になりますので、必ず正しい手順で操作してください。
また、パソコンの使用を一時的に中断したいときには、スタンバイまたは休止状態にする方法もあります。

参照 スタンバイ、休止状態

➲「4章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

電源を切る前に

●必要なデータは保存してください。
●起動中のアプリケーションは終了してください。
● Disk LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

操作手順

1 ［スタート］ボタンをクリックし①、［シャットダウン］をクリックする②

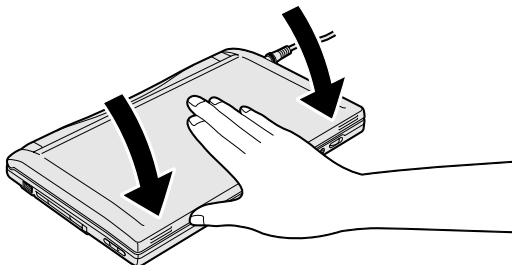
2 ▼ ボタンをクリックし①、［シャットダウン］を選択する②

3 ［OK］ボタンをクリックする

Windows が終了し、電源が切れます。

電源を切った後は

●周辺機器の電源はパソコン本体の電源を切った後に切ってください。

●ディスプレイは、中央部に手を置いて静かに閉じてください。左端に手を置いて閉じた場合、ディスプレイが正しく閉まらない場合があります。また、強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。

●パソコン本体や周辺機器の電源は、切った後、すぐに入れないでください。故障の原因となります。

● 周辺機器の電源は、電源を入れるときが「パソコンより先」、電源を切るときは「パソコンより後」と覚えておきましょう。

3 再起動する

いったんWindowsを終了した後、すぐにもう1度起動することを再起動といいます。パソコンの設定を変えたときや、パソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。

1 ［スタート］ボタンをクリックし①、［シャットダウン］をクリックする②

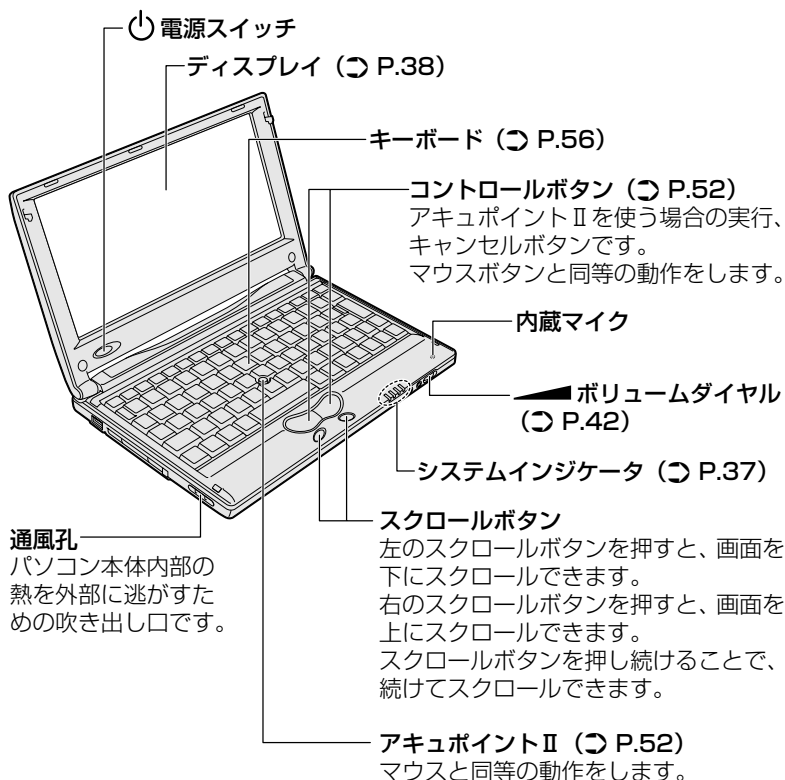
2 ▼ ボタンをクリックし①、［再起動］を選択する②

3 ［OK］ボタンをクリックする

3章
Librettoの機能

各部の名称

ここでは、各部の名称と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、それぞれに関連する節で行います。

■ 前面図

電源スイッチ

ディスプレイ（⇨ P.38）

キーボード（⇨ P.56）

コントロールボタン（⇨ P.52）
アキュポイントⅡを使う場合の実行、キャンセルボタンです。
マウスボタンと同等の動作をします。

内蔵マイク

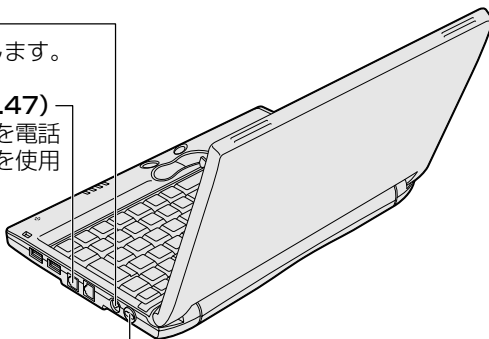
ボリュームダイヤル（⇨ P.42）

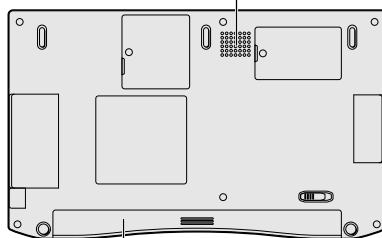
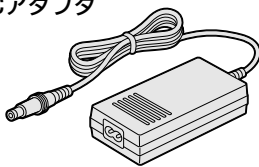
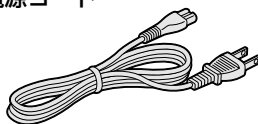
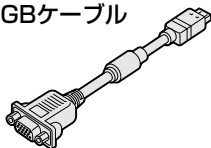
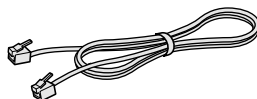
システムインジケータ（⇨ P.37）

スクロールボタン
左のスクロールボタンを押すと、画面を下にスクロールできます。
右のスクロールボタンを押すと、画面を上にスクロールできます。
スクロールボタンを押し続けることで、続けてスクロールできます。

通風孔
パソコン本体内部の熱を外部に逃がすための吹き出し口です。

アキュポイントⅡ（⇨ P.52）
マウスと同等の動作をします。

■ 背面図

お願い
- セキュリティロック用の機器については、本パソコンに対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

■ 裏面図

■ 付属品

周辺機器の接続場所

次の場所には、周辺機器が接続できます。

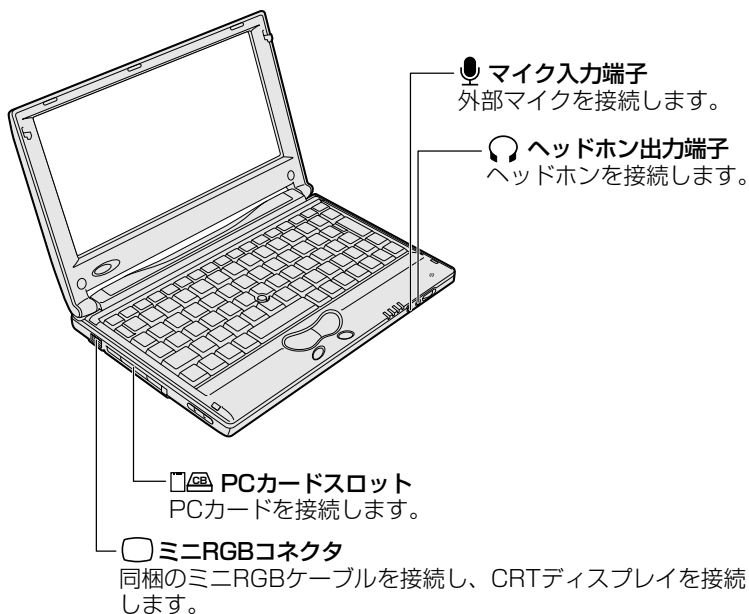
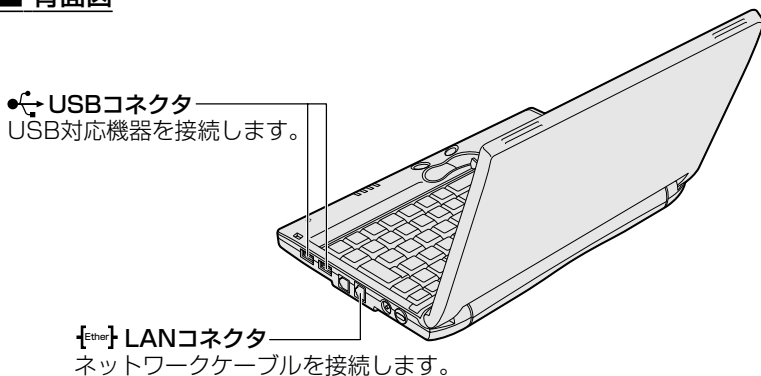
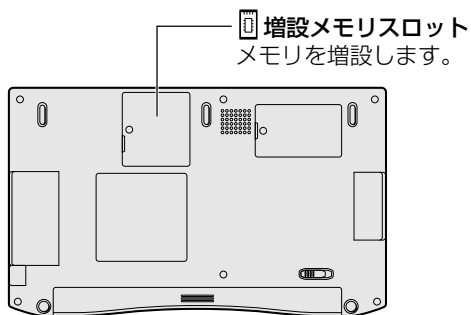
参照 詳細について ➲「5 章 Libretto を拡張する」

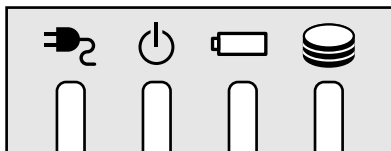
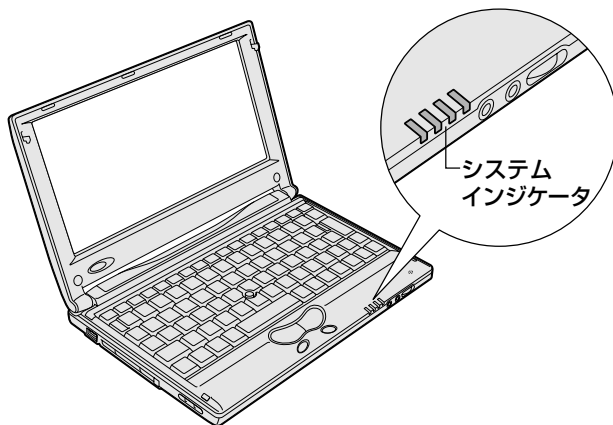
■ 前面図

マイク入力端子
外部マイクを接続します。

ヘッドホン出力端子
ヘッドホンを接続します。

PCカードスロット
PCカードを接続します。

ミニRGBコネクタ
同梱のミニRGBケーブルを接続し、CRTディスプレイを接続します。

■ 背面図

■ 裏面図

2 システムインジケータ

システムインジケータは、パソコン本体の動作状態を示します。
インジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているか知ることができます。

	DC IN LED	電源コードの接続 ➲「2章 1 電源を入れる」
	Power LED	電源の状態 ➲「2章 1 電源を入れる」
	Battery LED	バッテリの状態 ➲「4章 2 バッテリを充電する」
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている ➲「本章 4 ハードディスクドライブ」

3 ディスプレイ

ディスプレイは、パソコンの内部で行う作業を、目に見えるように表示する装置です。ディスプレイを見ながらパソコンに指示を出すことができます。
本製品では表示装置としてTFT方式カラー液晶ディスプレイ（1280 × 600ドット）が内蔵されています。液晶ディスプレイは、画面をごく小さな点に分けて、点ごとに電圧を変化させて画像を表示します。ドットは点の数を表します。
表示装置には、液晶ディスプレイの他に、テレビと同じようにブラウン管を発光させて表示するCRTディスプレイもあります。

参照 CRTディスプレイの接続 ➲「5章6 CRTディスプレイを接続する」

■ 表示について

● TFT方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、一部に表示不良画素（欠け・常時点灯など）が存在することがあります。これらの表示不良画素は、少量に抑えるように管理していますが、現在の最先端の技術でも表示不良画素をなくすことは困難ですので、ご了承ください。

■ 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

1600 x 1200ドット	65,536色
1280 x 1024ドット	1,677万色
1280 x 600ドット	1,677万色
1024 x 768ドット	1,677万色
800 x 600ドット	1,677万色
640 x 480ドット	1,677万色

1600 × 1200、1280 × 1024、1024 × 768ドットの解像度は仮想スクリーン表示になります。

● 1,677万色はディザリング表示です。

● **ディザリング** ● 1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法。

解像度を変える

1 ［コントロールパネル］を開き、［画面］アイコン（ ）をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何もないところで右クリックし、［プロパティ］をクリックする

［画面のプロパティ］画面が表示されます。

2 ［設定］タブで、［画面の領域］を変更する

パソコンの絵の中に、プレビューが表示されます。

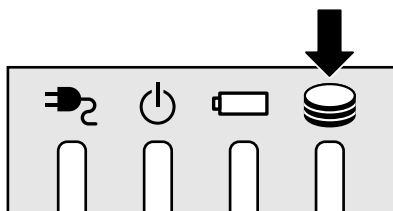
3 ［OK］ボタンをクリックする

- それぞれのパソコンには、ディスプレイの大きさに応じて、適した表示サイズがあります。かえって見づらくなる場合は、元の設定に戻してください。

4 ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブとは、データを磁気で記憶する装置です。電源を切っても、データが消えることはありません。フロッピーディスクや CD-R と比べて容量が大きいためたくさんのデータを記憶できます。
本製品にはハードディスクドライブが内蔵されています。取りはずしはできません。
必要があれば、PC カードタイプ（TYPE Ⅱ）のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすこともできます。

ハードディスクドライブに関する表示

ハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk LED が点灯します。

- Disk LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。

ハードディスクに記憶された内容は故障や損害の原因にかかわらず保証いたしかねますので、ご了承ください。
万一故障した場合に備え、バックアップを取ることをおすすめします。

- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起ったり、変化／消失した場合に備えて、定期的に外部メディアなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、外部メディアなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

5 音量の調節

1 スピーカの音量を調節する

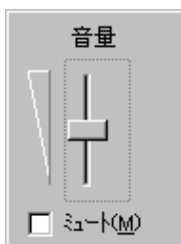
スピーカの音量調節は、ボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」を使用します。

ボリュームダイヤルで調節する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。

［音量］アイコンから調節する

1 タスクバー上の［音量］アイコン（ ）をクリックする

次の画面が表示されます。

2 つまみを上下にドラッグして調節する

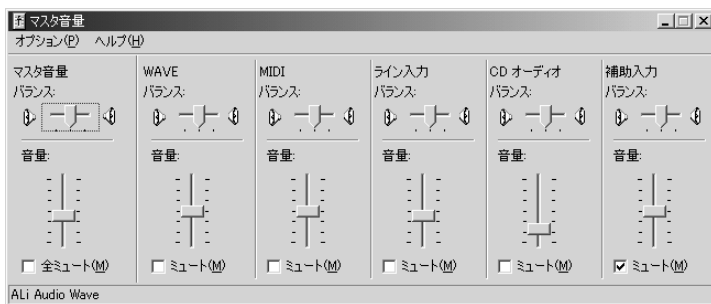
つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると、消音になります。

使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカでハウリングを起こし、高く大きな音が発生することがあります。この場合は、次のようにしてください。

- 本製品のボリュームダイヤルで音量を調節する
- 使用しているアプリケーションの設定を変える
- 外部マイクをスピーカから離す

「マスタ音量」で調節する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

1 タスクバー上の［音量］アイコン（ ）をダブルクリックする
または、
［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調節する
つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると消音となります。

■ 音楽／音声を再生するとき

「マスタ音量」の各項目では次の音量が調節できます。

マスタ音量　　：全体の音量を調節する
WAVE　　：MP3 ファイル、Wave ファイル、
　　音楽 CD、DVD-ROM、DVD-Video など
MIDI　　：MIDI ファイル
CD オーディオ　：音楽 CD（Windows Media Player 以外の場合）

また、お使いのアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『マスタ音量のヘルプ』をご覧ください。

【音楽 CD を再生するとき】

外付け CD-ROM ドライブ（別売り）を接続して、音楽 CD を再生できます。
パソコン本体のスピーカから音楽を聴く場合は、次の手順で設定をしてください。

① パソコン本体に CD-ROM ドライブを接続する
② ［コントロールパネル］を開き、［システム］をダブルクリックする
③ ［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
④ ［DVD/CD-ROM ドライブ］の左側の ⊞ をクリックする
⑤ CD-ROM ドライブを選択してダブルクリックする
⑥ ［プロパティ］タブで［この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする］をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

2 音楽／音声の録音レベルを調節する

録音レベルの調節は、次のように行います。

パソコン上で録音するとき

1 タスクバーの［音量］アイコン（ ）をダブルクリックする
または、［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

2 メニューバーの［オプション］→［プロパティ］をクリックする

3 ［音量の調整］で［録音］をチェックする

4 ［表示するコントロール］をチェックする
［マイク］がチェックされていることを確認します。

5 ［OK］ボタンをクリックする

6 ［録音コントロール］画面で、使用するデバイスの［選択］をチェックする

［マイク］　　：外部マイクから録音するとき

7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する

- 同時に２つのデバイスを選択することはできません。
- 録音したい音楽／音声が「マスタ音量」の［WAVE］対応の場合、録音するときも［WAVE］の音量により影響を受けます。

3 システムスピーカについて

システムスピーカを設定すると、パソコンのハードウェアの状態を知ることができます。ご購入時は「鳴らす」に設定されています。

1 ［コントロールパネル］を開き、［東芝 HW セットアップ］アイコン（ ）をダブルクリックする

2 ［アラーム］タブで設定する

鳴らす場合は［システムビープ音を鳴らす］をチェックします（☑）。音量は［アラーム音量］のスライダーバーをドラッグして調整します。

6 内蔵モデム

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

■ 使用上のお願い

- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

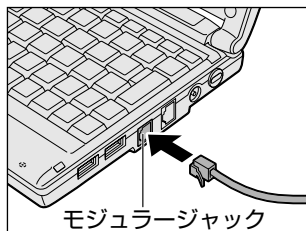
- **分岐アダプタ** ● 1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
- **回線切換器** ● 1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

- PCカード接続のハードディスクドライブやCD-ROMドライブなどの動作中に、通信を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
  - ・通信回線の速度が遅くなる
  - ・通信回線が切断される
  - ・ダイヤルに失敗する

モジュラーケーブルの取り付け

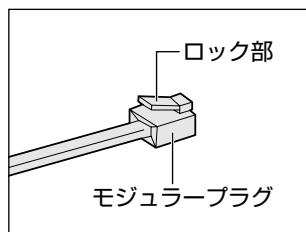
モジュラーケーブルを取り付けて、内蔵モデムを使用する前に、あらかじめ『安心してお使いいただくために』を必ずお読みになり、注意事項をお守りください。

1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。

2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラープラグに差し込む

ISDN 回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ（TA）またはダイヤルアップルータのアナログポートなどに接続してください。

■ モジュラーケーブルを取りはずすとき

モジュラーケーブルを取りはずすときは、モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグのロック部分を押さえながら抜きます。

海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

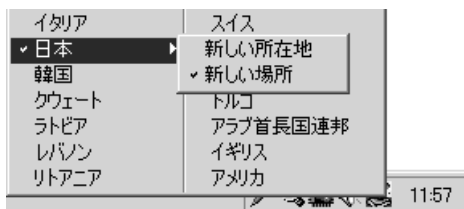
（2001年8月現在）

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。
本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードでご使用ください。他地域のモードでご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

1 ［スタート］→［プログラム］→［Toshiba Internal Modem］→［Region Select Utility］をクリックする

［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）がタスクバーに表示されます。

2 タスクバーの［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。
現在設定されている地域設定と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。

3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

地域名を選択した場合、［新しい場所設定作成］画面が表示されます。［OK］ボタンをクリックしてください。表示される［電話とモデムのオプション］画面で新しく所在地情報を作成します。この場合、新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。
所在地情報名を選択した場合、その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

■ その他の設定

1 タスクバーの［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する

【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する	地域選択後、［電話とモデムのオプション］画面が表示されます。
場所設定による地域選択	［電話とモデムのオプション］の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、［電話とモデムのオプション］の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

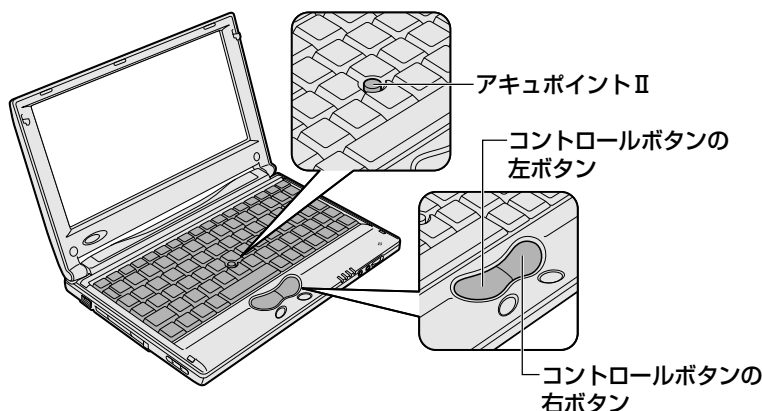
【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイアルのプロパティ】

［電話とモデムのオプション］画面を表示します。

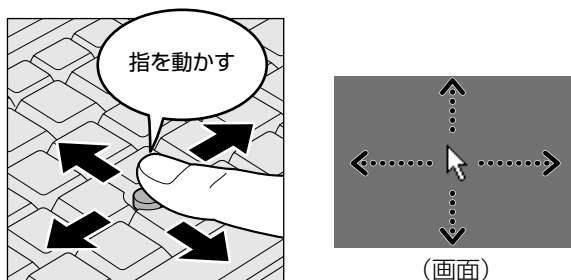
7 アキュポイントⅡと
コントロールボタン

電源を入れてWindowsを起動すると画面上に が表示されます。これを「ポインタ」といいます。
パソコンは、主にこの「ポインタ」を動かしてパソコンを操作していきます。
「ポインタ」を動かす装置として、本製品にはアキュポイントⅡとコントロールボタン（右、左）が用意されています。
アキュポイントⅡとコントロールボタンでポインタを動かし、パソコンを操作してみましょう。

- 次の場合、アキュポイントⅡを操作しなくても、画面上のポインタが移動することがあります。
  - ・電源を入れたとき
  - ・一定の力で一定方向にポインタを移動し続け、指を離したとき
  - ・温度が急激に変化したとき

  この場合は、10秒以上待ってから、アキュポイントⅡを使用してください。

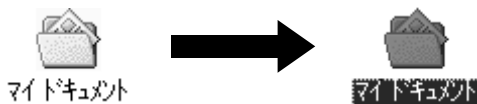
ポインタを動かす

アキュポイントⅡに指を置き、押さえながら指を前後左右に動かすと、ポインタが指の方向にあわせて動きます。

（画面）

クリックする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを１回押すことです。

アイコン、文字などを選択するときに使います。アイコンなどを選択すると、色が変わります。これを「反転表示」といいます。

＜クリックする前＞　　＜クリックした後＞

ダブルクリックする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンをすばやく２回押すことです。
ファイルを開いたり、アプリケーションを起動できます。

右クリックする

ポインタを目的の位置にあわせて、右ボタンを１回押すことです。
メニューが表示されるので、行いたいことを選択します。

ドラッグアンドドロップする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを押したまま①、アキュポイントⅡでポインタを動かします②（ドラッグ）。ポインタが目的の位置に移動したら、左ボタンから指をはなします③（ドロップ）。

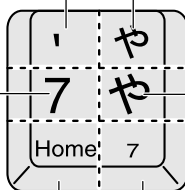
8 キーボード

1 キーボードについて

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

Ins(インサート)<PrtSc(プリントスクリーン)>キー
文字の入力モードを挿入／上書きに切り替えるときなどに使う
Del(デリート)
<SysRq(システムリクエスト)>キー
文字を削除するときなどに使う
オーバレイキー
Pause(ポーズ)
<Break(ブレーク)>キー
BackSpace
(バックスペース)キー
Enter(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う
Shift(シフト)キー
矢印キー
カーソル移動などに使う
また、Fn（エフエヌ）キーとの組み合わせにより、特殊機能を実行するときに使う
Fn(エフエヌ)キー
オーバレイキーを使用するときやファンクションキー、矢印キーとの組み合わせにより、特殊機能を実行するときに使う
アプリケーションキー
コントロールボタンの右ボタンやマウスの右ボタンを押すことと同じ動作を行いたいときに使う
カタカナ／ひらがな<ローマ字>キー
変換キー

■ 文字キー

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。
文字キーに印刷されている２～６種類の文字や記号は、制御キーで使い分けます。

参照 アロー状態、数字ロック状態 ➲「本節 Fnキーを使った特殊機能キー」

Fnキーを使った特殊機能キー

キー	内 容
Fn＋F1	「模様なし」のスクリーンセーバーが実行され、画面が暗くなります。 スクリーンセーバーを解除するには、Shiftキーや Ctrlキーを押すか、アキュポイントⅡの操作を行なってください。 スクリーンセーバーのパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。 パスワードは、［画面のプロパティ］の［スクリーンセーバー］タブで設定してください。 参照 詳細について ➲「4章 4-4 スクリーンセーバーパスワード」
Fn＋F2 〈省電力モードの設定〉	Fn＋F2キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 Fnキーを押したまま、F2キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
Fn＋F3 〈使用する機能の選択〉	Fn＋F3キーを押すと、電源を切る状態（スタンバイ、休止状態、電源オフ）のメニューが表示されます。 Fnキーを押したまま、F3キーを押すたびに、表示が切り替わり、電源スイッチを押したときに実行する機能が設定されます。
Fn＋F4 〈アラーム音量の調節〉	アラーム音量を調節します。ビープ音で音量を知らせます。 Fnキーを押したまま、F4キーを押すたびに音量が変わります。 →OFF→小→中→大
Fn＋F5 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について ➲「5章 6 CRTディスプレイを接続する」
Fn＋F6 Fn＋F7 〈輝度の調節〉	Fn＋F6または Fn＋F7キーを押すと、画面の輝度を変更できます。 Fnキーを押したまま、F6キーを押すたびに画面の輝度が下がり、暗くなります。 Fnキーを押したまま、F7キーを押すたびに画面の輝度が上がり、明るくなります。

Fn＋F10 〈アロー状態〉	キートップ左下に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます。 アロー状態を解除するには、もう1度Fn＋F10キーを押します。
Fn＋F11 〈数字ロック状態〉	キートップ右下に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます。 数字ロック状態を解除するには、もう1度Fn＋F11キーを押します。
Fn＋F12 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。 ロック状態を解除するには、もう1度Fn＋F12キーを押します。
Fn＋↑ 〈ページアップ〉 Fn＋↓ 〈ページダウン〉	ページを上下に移動できます。
Fn＋← 〈ホーム〉 Fn＋→ 〈エンド〉	カーソルの位置を移動できます。 Fnキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。 Fnキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

⊞キーを使ったショートカットキー

⊞（ウィン）キーと他のキーとの組み合わせを、次のようにショートカットとして使用できます。

キー	操 作
⊞＋R	［ファイル名を指定して実行］画面を表示する
⊞＋M	すべてをアイコン化する
Shift＋⊞＋M	すべてのアイコン化を元に戻す
⊞＋F1	『Windows のヘルプ』を起動する
⊞＋E	［マイコンピュータ］画面を表示する
⊞＋F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl＋⊞＋F	他のコンピュータを検索する
⊞＋Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える
⊞＋Break	［システムのプロパティ］画面を表示する

特殊機能キー

複数キーの組み合わせで、特殊機能を実行することができます。

特殊機能	キー	操 作
システムの再起動	Ctrl＋Alt＋Del	［Windows のセキュリティ］画面が表示されます。
画面コピー	Fn＋Ins	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	Fn＋Alt＋Del	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

参照 Ctrl＋Alt＋Delキーでの再起動について
➲「6 章 2 その他 - Q. パソコンが応答しない」

2 日本語を入力するには

本製品には、日本語入力システム MS-IME が用意されています。
日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

起動したときは、英数字の入力ができるようになっています。次の方法で日本語を入力できるようになります。

■ 半／全キーを押す

日本語入力に切り替わると、IME ツールバーは次のように表示されます。
IME ツールバーは、デスクトップの右端に表示されています。

パソコンで入力できる文字には、「半角」「全角」２種類の大きさがあります。
「半角」は漢字モードではないときに普通に表示される文字で、少し縦長です。
「全角」は半角を二つあわせたくらいの大きさになります。
英数字やカタカナは半角・全角どちらでも入力できます。ひらがなと漢字は全角でのみ入力できます。

例

（半角）

（全角）

日常の取り扱いとお手入れ

⚠注意

・お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
・機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

パソコン本体

●機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。

●薬品や殺虫剤などをかけないでください。

●ディスプレイは静かに閉じてください。

●使用できる環境は次のとおりです。
温度5～35℃、湿度20～80%

●次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所
非常に高温または低温になる場所
急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）
強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）
ホコリの多い場所
振動の激しい場所
薬品の充満している場所
薬品に触れる場所

●使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

電源コード

電源コードのプラグを長期間に渡って AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取ってください。

キーボード

乾いた柔らかい素材のきれいな布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を堅くしぼって拭きます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。
飲み物など液体をこぼしたときは電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、ただちにお買い求めの販売店、または保守サービスに点検を依頼してください。

液晶ディスプレイ

■ 画面のお手入れ

- 画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかい素材のきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

■ サイドライト用 FL 管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにサイドライト用 FL 管（冷陰極管）が内蔵されています。サイドライト用 FL 管（冷陰極管）は、ご使用になるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。
有償にて交換いたします。

アキュポイントII（ポインティング装置）

アキュポイントIIは、ハンドクリームや油などのついた手で操作したり、油性の液体をつけたりしないでください。操作時にすべりやすくなったり、アキュポイントキャップが劣化する（溶ける）おそれがあります。アキュポイントキャップがすりきれたら取り換えてください。
携帯電話、無線機など電波を発生する機器が近くにあるときにポインタが移動する場合があります。その場合は、電波を発生する機器を離してください。

■ キャップの取り換え

予備として2個のアキュポイントキャップが同梱されています。長期間使用し、すり切れたら取り換えてください。取り換え方法は次のとおりです。
スペアのアキュポイントキャップをお買い求めになる場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。

1. アキュポイントキャップをしっかりつまみ、垂直に引き上げて取りはずす

2. 新しいアキュポイントキャップを切り込みにあわせてアキュポイントIIにはめる

データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどにコピーしておくことです。
本製品は次のような場合、スタンバイ機能または休止状態が無効になり、本体内の記憶装置が変化し、消失するおそれがあります。

- ●誤った使いかたをしたとき
- ●静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
- ●長期間使っていなかったために、バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）の充電量がなくなったとき
- ●故障、修理、バッテリ交換のとき
- ●バッテリ駆動で使用しているときにバッテリパックを取りはずしたとき
- ●増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失については、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

持ち運ぶとき

持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを守ってください。

- ●電源は必ず切ってください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
  電源を切った後も、Disk LEDが点灯中は動かさないでください。
- ●急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。
  やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- ●外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。
- ●落としたり、強いショックを与えないでください。また、日の当たる自動車内に置かないでください。
  故障の原因になります。
- ●持ち運ぶときはディスプレイを閉じてください。

消耗品について

次の部品は消耗品です。

●バッテリパック（リチウムイオン電池）
長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパック（PABAS009）と交換してください。

●時計用バッテリ（交換は有償です）

●アキュポイントキャップ（交換は同梱されているものを使用してください）
消耗した場合は、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

仕様について

本製品の仕様は国内向けです。
国外で製品を使用する場合は、電源に合った電源コードをお買い求めください。

■ ACアダプタの仕様

入力	AC100V～240V、0.7～0.4A、50/60Hz
出力	15V、2A

4章
モバイルしよう

1 モバイルする前に

Libretto でモバイルするためには、あらかじめ準備しておくことや知っておいたほうがよいことがあります。
この章では、より快適にモバイルするための方法を紹介します。

■バッテリを充電する

モバイルで使用するためには、あらかじめバッテリの充電を完了しておく必要があります。

参照 詳細について ➲「本章 2 バッテリを充電する」

■省電力ユーティリティを使う

バッテリで使用しているときに、消費電力を減らす設定を行うことで、より長い時間モバイルすることができます。設定は、「省電力ユーティリティ」で行います。

参照 詳細について ➲「本章 3 省電力ユーティリティを使う」

■パスワードセキュリティ機能を使う

モバイルで使用しているときは、特に、第三者にパソコンを操作されないように注意する必要があります。本製品では、「パスワードセキュリティ機能」を設定することができます。

参照 詳細について ➲「本章 4 パスワードセキュリティ機能を使う」

■パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る

モバイルで使用しているときは、作業を一時的に中断することがよくあります。そのたびに電源を切ったり、入れたりするのではなく、「スタンバイ」や「休止状態」を使うと、中断時の作業がすばやく再現されるので便利です。

参照 詳細について ➲「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

■外出先でインターネットをする

モバイルでインターネットや電子メールを使用することができます。ここでは、モバイルでインターネットに接続する方法や、外出先の環境に合わせて設定を変更する方法を紹介します。

参照 詳細について ➲「本章 6 外出先でインターネットをする」

2 バッテリを充電する

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。
バッテリを充電して、バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。
バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリパックを取り付けます。
ご購入時は、バッテリはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリを充電してからお使いください。

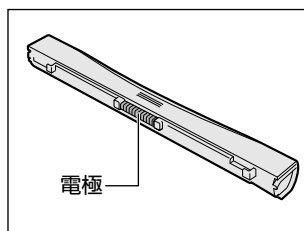
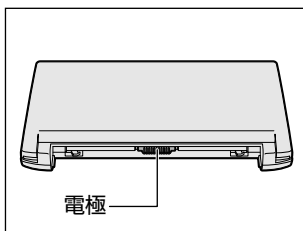
本製品のマニュアル『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックをお使いになるときに守っていただきたい重要事項が記述されています。
バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。

『安心してお使いいただくために バッテリパックの取り扱いについて』

⚠ 警告

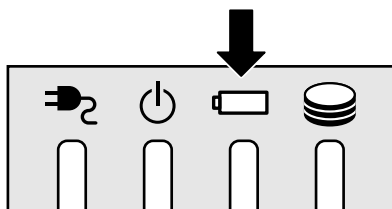
- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（TOSHIBA バッテリパック：PABAS009、大容量バッテリパック：PABAL005）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。
- バッテリパックの使用中、充電中、保管時に異臭・発熱・変色・変形など異常が発生した場合は、すぐ電源を切り電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
  安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてください。

⚠ 注意

・バッテリパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
・別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
・バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、全バッテリを充電してください。
・バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って途中で作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。バッテリ充電量を確認するには、次の方法があります。

Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。

バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。Battery LEDは次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・バッテリが接続されていない ・ACアダプタが接続されていない ・バッテリ異常

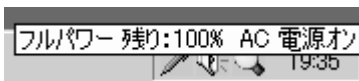
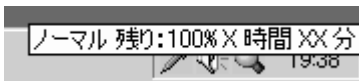
タスクバーの［省電力］アイコンで確認する

タスクバーの［省電力］アイコン（ ）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリ駆動で使用している場合には、バッテリ動作予想時間も表示されます。

● ACアダプタを接続している場合

フルパワー 残り:100% AC 電源オン
19:35

●バッテリ駆動の場合

ノーマル 残り:100% X 時間 XX 分
19:38

- タスクバーに表示される［省電力］アイコン（ ）の色は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- 東芝省電力ユーティリティ（［コントロールパネル］→［東芝省電力］）の［電源設定］タブの設定内容によっては、タスクバーに［省電力］アイコンが表示されません。表示させたいときは、［電源設定］タブで［タスクバーに省電力モードの状態を表示する］をチェックしてください。

バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

● Battery ▭ LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリの減少を示しています）

●警告音（ビープ音）が鳴る

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

ご購入時の設定では、対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

- 長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音でもBattery ▭ LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、パソコン本体の電源が入っているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

■ 充電完了までの時間

状 態	時計用バッテリ
電源ON	8時間以上

● 時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

2 バッテリを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN LED が緑色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFF にかかわらず、フル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery LED がオレンジ色に点灯します。
DC IN LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

● バッテリパックが極端に熱いか冷えていると、正常に充電されないことがあります。バッテリを充電するには、10～30℃の室温で充電してください。

● パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 充電時間

フル充電になるまでの充電時間の目安は次のとおりです。
(標準バッテリパックの場合)

状 態	充電時間
電源ON	約3時間以上
電源OFF	約3時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

4章 モバイルしよう

■ 使用できる時間

バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。
次の時間は目安にしてください。

【充電完了の状態で使用した場合】

省電力モード	動作時間
ロングライフ	約3時間30分

（注）当社使用のプログラムで計測

■ 使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていきます。この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

【フル充電した状態で電源を切った場合】

パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約2週間

● スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

バッテリを節約する

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

●こまめに休止状態にする

参照 休止状態 ➲「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

●入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

参照 ディスプレイを閉じる
➲「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

●省電力モードに設定する

参照 省電力設定 ➲「本章 3 省電力ユーティリティを使う」

3 バッテリパックを交換する

● バッテリパックの取り付け / 取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。

取り付け／取りはずし

1 データを保存し、アプリケーションを終了する

2 [スタート] → [シャットダウン] をクリックする

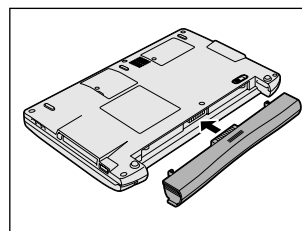
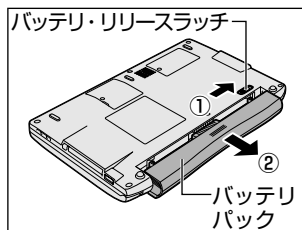
3 [シャットダウン] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

Windows を終了して電源が切れます。

4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

6 バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリパックを取りはずす②

7 交換するバッテリパックを、カチッという音がするまで、静かに差し込む

省電力ユーティリティを使う

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らすこと（ディスプレイの明るさを抑えるなど）で、より長い時間お使いいただけます。
AC アダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

起動方法

1 ［コントロールパネル］を開き、［東芝省電力］アイコン（ ）をダブルクリックする

［電源設定］タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。
また、現在の電源やバッテリ残量などの詳細情報も表示します。

■［電源に接続］［バッテリを使用中］

設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になる省電力モードに設定します。［電源に接続］［バッテリを使用中］は AC アダプタ接続／バッテリ駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。
これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。
また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

●フルパワー
最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、［電源に接続］（AC アダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。

●ロングライフ
消費電力を優先して省電力制御を行います。

●ノーマル
性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、［バッテリを使用中］（バッテリ駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。

●ハイパワー
性能を優先して省電力制御を行います。

【省電力モードの作成】

① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
② ［コピー］ボタンをクリックする
［〜のコピー］という省電力モードができます。
③ その省電力モードの名前を変更する
④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

参照 省電力モードの詳細設定 ➲「本項 省電力モードの詳細設定」

【省電力モードの削除】

① 削除する省電力モードをクリックする

② ［削除］ボタンをクリックする
［元に戻す］ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、［閉じる］ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている４つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

［タスクバーに省電力モードの状態を表示する］をチェックする（☑）と現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。チェックをはずすとアイコンは表示されません。
省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを開くことができます。

【タスクバーにTransmeta Crusoe（TM）Processorモードの状態を表示する】

ここをチェックする（☑）と現在のCPU周波数（Transmeta Crusoe™ Processor）の状態を示すアイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。
CPU周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU周波数を変更することができます。

[休止状態] タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

[デバイス設定] タブ

LAN を使用するかしないか、を設定します。AC アダプタを使用しているときとバッテリを使用しているときで、それぞれ設定ができます。また、未使用状態に切り替えられたときに確認のメッセージが表示されるようにできます。

省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

■ 起動方法

①［電源設定］タブで利用したい省電力モード（フルパワー、ロングライフ、ノーマル、ハイパワー）を選択し、［詳細］ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。

（表示例）

■［全般］タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

■［省電力］タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPU の処理速度などを設定します。また、CPU が高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

■［動作］タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、AC アダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

次のような場合はスタンバイが無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

・誤った使いかたをしたとき
・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
・バッテリが消耗したとき
・故障、修理、電池交換のとき
・バッテリ駆動で使用中にバッテリパックを取りはずしたとき
・増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（［東芝省電力］-［休止状態］タブの［休止状態をサポートする］がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリ充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

●スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める

ここをチェックする（☑）と、Windows のパスワードを設定している場合には、スタンバイや休止状態から復活するときに Windows パスワードが要求されます。

● ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、［現在の設定をすべてのモードで使用する］ボタンをクリックします。

● 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
● 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

■［アラーム］タブ

バッテリ残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。
［アラーム］タブは［電源設定］タブで［バッテリを使用中］に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

1 ［東芝省電力ユーティリティ］を起動後、［東芝省電力のプロパティ］画面右上の ? をクリックする

ポインタが ? に変わります。

2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

4 パスワードセキュリティ機能を使う

1 パスワードセキュリティ機能について

本製品では、「パスワードセキュリティ機能」を設定できます。

・ユーザパスワード
　電源を入れたときや休止状態から復帰するときに入力します

・スクリーンセーバーパスワード
　スクリーンセーバーを解除するときに入力します

2 ユーザパスワードの設定

ユーザパスワードを設定すると、電源を入れたときや休止状態から復帰するときにパスワード入力が要求されます。
ユーザパスワードの登録/削除は、「東芝 HW セットアップ」で行います。

ユーザパスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
パスワードは「＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。
よく確認してから入力してください。

<table>
<tr><td rowspan="3">使用できる文字</td><td>アルファベット（半角）</td><td>A B C D E F G H I J K L M N
O P Q R S T U V W X Y Z</td></tr>
<tr><td>数字（半角）</td><td>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9</td></tr>
<tr><td>記号（単独のキーで入力できる文字の一部）</td><td>－ ^ @ [ ] ; : , . / （スペース）</td></tr>
<tr><td>使用できない文字</td><td colspan="2">・全角文字（2バイト文字）
・日本語入力システムの起動が必要な文字
【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など
・単独のキーで入力できない（入力するときに Shift キーなどを使用する）文字
【例】｜（バーチカルライン）、＆（アンド）、~（チルダ）など
・¥（エン）
[¥ |]キーや[\ ろ]キーを押すと¥が入力されます。</td></tr>
</table>

東芝 HW セットアップの起動方法

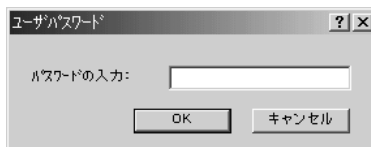
1 ［コントロールパネル］を開き、［東芝 HW セットアップ］アイコン（ ）をダブルクリックする

ユーザパスワードの登録

1 ［パスワード］タブで［ユーザパスワード］の［登録］をチェックする

2 ［ユーザパスワード］画面の［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードは大文字、小文字を区別しません。

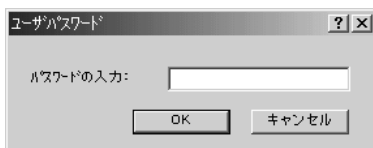
ユーザパスワード
パスワードの入力:
OK キャンセル

3 ［パスワードの確認］画面の［パスワードの確認］に同じパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードの確認
パスワードの確認:
OK キャンセル

4 表示されるメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

ユーザパスワードの削除

1 ［パスワード］タブで［ユーザパスワード］の［未登録］をチェックする

2 ［ユーザパスワード］画面の［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

3 表示されるメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

● パスワードの入力エラーが３回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。
この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう１度設定を行なってください。

キーフロッピーディスクの作成

ユーザパスワードの設定後、キーフロッピーディスクを作成できます。キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

1 電源を切る

2 別売りのフロッピーディスクドライブを接続し、書き込み可能状態のフロッピーディスクをセットする

3 電源を入れる

画面に「Password =」と表示されます。

4 設定したとおりにパスワードを入力する

5 Tabキーを押す

画面に「Insert password service disk if necessary. Are you sure?(Y/N)」と表示されます。

6 Yキーを押す

画面に「Password Service Disk Type?(1:2HD, 2:2DD)」と表示されます。

7 1または2キーを押す

お使いのフロッピーディスクのタイプをご確認のうえ、キーを押してください。

画面に「Remove the password service disk, then press any key.」と表示されます。

8 何かキーを押す

Windowsが起動します。

● キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよくご確認のうえ、ご使用ください。

3 ユーザパスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると、画面に「Password=」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、Enterキーを押す

パスワードは大文字、小文字を区別しません。

● パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

1 電源を入れる

画面に「Password =」と表示されます。

2 別売りのフロッピーディスクドライブを接続し、作成したキーフロッピーディスクをセットする

3 Enterキーを押す

フロッピーディスクから読み込みがはじまり、Windows が起動します。
設定したパスワードは解除されます。

● キーフロッピーディスクを作成していなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は有償になります。また、そのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 スクリーンセーバーパスワード

Fn＋F1キーを押すと、「模様なし」のスクリーンセーバーが実行され、画面が暗くなります。
スクリーンセーバーを解除するには、Shiftキーや Ctrlキーを押すか、アキュポイントⅡの操作を行なってください。
スクリーンセーバーにパスワードを設定すると、スクリーンセーバーを解除するときに、Windows のログオンパスワードの入力が要求されます。
スクリーンセーバーのパスワードは、[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで設定します。

スクリーンセーバーパスワードの登録

1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン（ ）をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何もないところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 [スクリーンセーバー] タブでスクリーンセーバーを選択する

3 [パスワードによる保護] をチェックする

（表示例）

4 ［OK］ボタンをクリックする

スクリーンセーバーパスワードの入力

スクリーンセーバーの動作中にShiftキーやCtrlキーを押すか、アキュポイントⅡの操作を行うと、［コンピュータのロックの解除］画面が表示されます。

1 Windows のログオンパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードの大文字、小文字は区別されます。パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る

1 スタンバイ／休止状態

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
パソコンの使用を中断したときの状態をメモリに保存するのが「スタンバイ」、ハードディスクに保存するのが「休止状態」です。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。データの消失や感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。データが消失するおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することをおすすめします。

スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。
スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、AC アダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

1 ［スタート］①→［シャットダウン］②をクリックする

2 ▼ ボタンをクリックし①、［スタンバイ］を選択する②

3 ［OK］ボタンをクリックする

メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

4 Power ⏻ LED がオレンジ点滅しているか確認する

［スタート］メニューから選択する方法のほかに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにもスタンバイまたは休止状態にすることができます。その場合は、設定が必要です。

参照 詳細について

➲「本節 2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

● スタンバイ状態は、表示画面が消えていても電源が入っています。スタンバイ状態でお使いになる場合は、次の「警告」や「注意」の指示を必ずお守りください。

⚠警告

・パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

⚠注意

・スタンバイ中は、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ中は電源が入っていますので、増設メモリの取り付け／取りはずしを行うと、感電、故障のおそれがあります。

休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現することができます。パソコンをバッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることをおすすめします。
ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

1 休止状態を有効に設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［東芝省電力］アイコンをダブルクリックする

② ［休止状態］タブで［休止状態をサポートする］をチェックする

③ ［OK］ボタンをクリックする

休止状態が有効になります。

2 ［スタート］①→［シャットダウン］②をクリックする

3 ボタンをクリックし①、［休止状態］を選択する②

4 ［OK］ボタンをクリックする

［スタート］メニューから選択する方法のほかに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにもスタンバイまたは休止状態にすることができます。その場合は、設定が必要です。

● 休止状態にするときは、メモリの内容をハードディスクに書き込んだ後に、電源が切れます。Disk LED が点灯中は、バッテリパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。

詳細について

➲「本節 2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき

［スタート］メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。
ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

① ［コントロールパネル］を開き、［東芝省電力］アイコンをダブルクリックする
② ［休止状態］タブで［休止状態をサポートする］をチェックする（☑）
③ ［OK］ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

● Fn＋F3キーを使用して、電源スイッチを押したときの動作を切り換えることができます。

参照 詳細について ➲「3章 8 キーボード」

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［東芝省電力］アイコンをダブルクリックする
② ［電源設定］タブで設定する省電力モードを選択し、［詳細］ボタンをクリックする
③ ［動作］タブの［電源ボタンを押したとき］で［スタンバイ］［休止状態］［電源オフ］のいずれかを選択する
④ ［OK］ボタンをクリックする
⑤ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じると電源を切る、またはパソコンの使用を中断することを、パネルスイッチ機能といいます。
休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。
ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする

② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする (☑)

③ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする

② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する

④ [OK] ボタンをクリックする

⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

● 手順 1 の③で [何もしない] を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順 1 の③で [スタンバイ] または [休止状態] を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

外出先でインターネットをする

外出先でもインターネットや電子メールを利用することができます。
外出先でインターネットに接続するには、次のような方法があります。

■ PHS、携帯電話を使う

PHS、携帯電話を接続してインターネットに接続できます。
Libretto に PHS、携帯電話を接続する場合は、別途、接続機器（別売り）が必要です。
接続について詳しくは、『PHS、携帯電話に付属の説明書』や『接続機器に付属の説明書』をご覧ください。

■ モジュラージャック付きの公衆電話

公衆電話の中には、モジュラージャックが用意されているものがあります。
「アナログ」と書いてあるモジュラージャックにモジュラーケーブルを接続します。

■ インターネット接続の設備が整っている場所

ホテルのビジネスルームなどでは、モジュラーケーブルを接続するための電話回線が用意されている場合があります。

ここでは、モバイルでインターネットや電子メールを使用する場合に、自宅やオフィスなどで普段利用している設定を変更する方法について説明します。
外出先の環境について、次の点を確認してください。
・外出先の電話回線のダイヤル方法（トーンまたはパルス）
・外出先の電話回線の市外局番

● ここでは、普段は自宅やオフィスなどで、インターネットやメールをモデム接続で使用している場合を、「現在の設定」とします。

外出先のダイヤル方法を確認する

最初に、外出先の電話回線のダイヤル方法（トーンまたはパルス）を確認します。
現在の設定と同じ場合は、特に設定を変更する必要はありません。
現在の設定と異なる場合は、「設定の変更」を行います。

外出先の市外局番を確認する

次に、外出先の電話回線の市外局番を確認します。
現在の設定と同じ市外局番の場合は、特に設定を変更する必要はありません。
現在の設定と異なる市外局番の場合は、「設定の変更」を行います。
現在の設定のままでインターネットに接続することもできますが、プロバイダのアクセスポイントまで電話料金がかかりますので、外出先により近いアクセスポイントに変更することをおすすめします。詳しくは、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

設定の変更

1 ［コントロールパネル］を開き、［電話とモデムのオプション］アイコン（　）をダブルクリックする

2 ［ダイヤル情報］タブで［所在地］を選択し、［編集］ボタンをクリックする

［所在地の編集］画面が表示されます。
外出先の設定を新たに登録したい場合は、［新規］ボタンをクリックしてください。その場合は［新しい所在地］画面が表示されます。

3 ［全般］タブで、次の点を確認する

●所在地
●国 / 地域
●発信元の市外局番
●外線発信番号
●ダイヤル方法

4 ［所在地の編集］画面で［OK］ボタンをクリックする

5 ［電話とモデムのオプション］画面で［OK］ボタンをクリックする

● 携帯電話 /PHS を使用して通信する場合は、市外局番に 0000（実在しない局番）を設定してください。

次に、接続先の電話番号の設定を行います。

1 ［スタート］→［設定］→［ネットワークとダイヤルアップ接続］→接続に使用するダイヤルアップ［XX（接続先)］をクリックする

［XX（接続先）へ接続］画面が表示されます。

2 ［プロパティ］ボタンをクリックする

［XX（接続先)］画面が表示されます。

3 ［全般］タブで［電話番号］欄に、これから使用したいアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力する

4 ［XX（接続先)］画面で［OK］ボタンをクリックする

5 ［XX（接続先）へ接続］画面で［キャンセル］ボタンをクリックする

● 接続先の電話番号の設定を新たに登録したい場合は、［スタート］→［設定］→［ネットワークとダイヤルアップ接続］→［新しい接続の作成］をクリックしてください。ウィザードが開始されます。

外出先での使用が終了した後は、設定を元に戻しておく必要があります。「普段利用する設定」と「外出先の設定」を、どちらも保存しておき、必要に応じて使い分けると便利です。

5章
Libretto を拡張する

周辺機器を接続する前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。
周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。
周辺機器の例です。周辺機器には、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

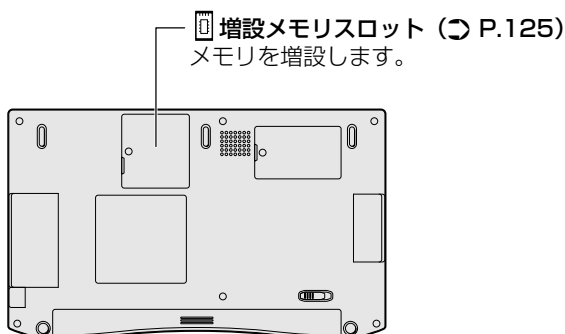
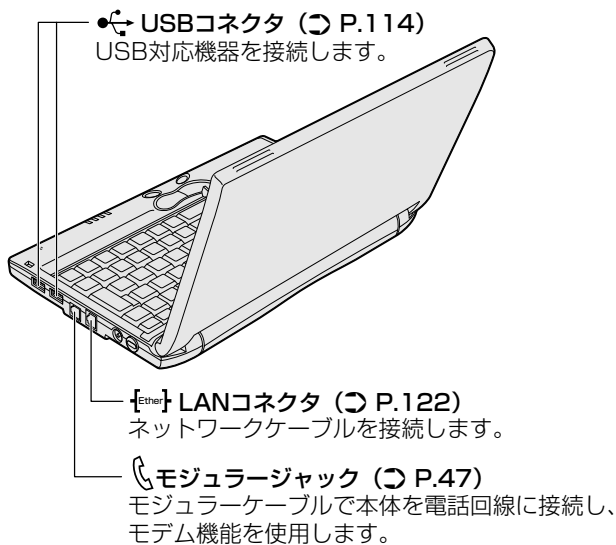
- ●プリンタ
- ● PC カード
- ●スキャナ
- ●マウス
- ●増設メモリ
- ●デジタルカメラ
- ●ハードディスクドライブ（本製品では内蔵済み）
- ●モデム（本製品では内蔵済み）
- ● LAN（本製品では内蔵済み）
- ●フロッピーディスクドライブ
- ● CD-ROM ドライブ

1 本製品に接続できる周辺機器

本製品には次のような周辺機器を接続できます。
周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているかご確認のうえ、ご購入ください。

● **インタフェース** ● 機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のこと。

USBコネクタ（ P.114）
USB対応機器を接続します。
Ether
LANコネクタ（ P.122）
ネットワークケーブルを接続します。
モジュラージャック（ P.47）
モジュラーケーブルで本体を電話回線に接続し、
モデム機能を使用します。

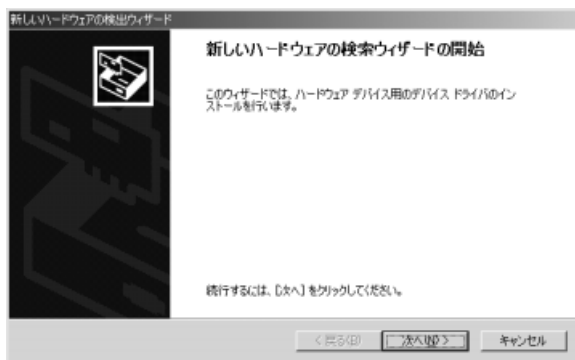
増設メモリスロット（ P.125）
メモリを増設します。

2 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。
ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

■ プラグアンドプレイに対応している場合

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続すると、Windowsがドライバの有無をチェックします。その周辺機器に対応したドライバが見つかった場合は、自動的にインストールを開始します。
［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。

■ プラグアンドプレイに対応していない場合

［ハードウェアの追加と削除ウィザード］を起動するか、機器に付属の説明書をご覧になり、ドライバのインストールや必要な設定を行なってください。

● **［ハードウェアの追加と削除ウィザード］の起動方法**
［コントロールパネル］を開き、［ハードウェアの追加と削除］をダブルクリック

3 取り付け／取りはずしのご注意

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。
取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。

⚠注意

・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。

● **ホットインサーション** ● 電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うこと。

- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

■ パソコン本体へケーブルを接続するとき

ケーブルを接続するときは、次の点に注意して、接続してください。

●パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

●ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

2 PCカードを接続する

目的に合わせたPC(ピーシー)カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。
PCカードには、次のようなものがあげられます。

- ● ISDNカード
- ●スマートメディアアダプタカード
- ● SCSIカード
- ●フラッシュメモリカード
- ●無線LANカード　など

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
お使いのPCカードがホットインサーションに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PCカードに付属の説明書』をご覧ください。

- ● PCカード接続のハードディスクドライブやCD-ROMドライブなどの動作中に、通信またはサウンドの再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
  - ・通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイヤルに失敗する
  - ・サウンド再生時に音飛びが発生する

使用できるPCカードのタイプ

本製品は、PC Card Standard準拠のTYPE Ⅱ対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

取り付け／取りはずしのご注意

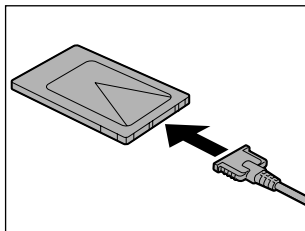
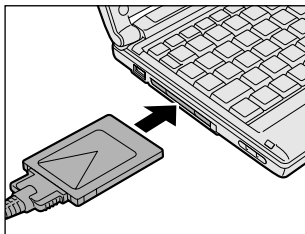
⚠ 注意

- ホットインサーションに対応していないPC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずにPC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

● 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

取り付け

1 PC カードにケーブルを付ける

SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 上下や方向を確認し、PC カードを挿入する

カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、またはPC カードが壊れることがあります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

参照 カードの接続および環境の設定方法 ➲『PC カードに付属の説明書』

取りはずし

1 PCカードの使用を停止する

①タスクバーの［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］アイコン（ ）をダブルクリックする

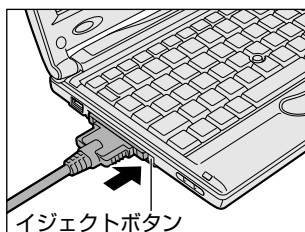
②表示される画面で、停止するPCカードを選択し、［停止］ボタンをクリックする

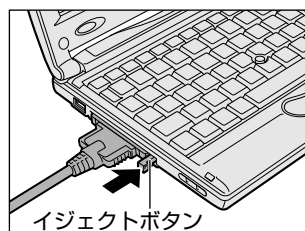
③表示される画面で、停止するPCカードを確認し、［OK］ボタンをクリックする

④「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［OK］ボタンをクリックする

⑤［ハードウェアの取りはずし］画面で［閉じる］ボタンをクリックする

2 PCカードスロットのイジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。

3 もう1度PCカードスロットのイジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く

- カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

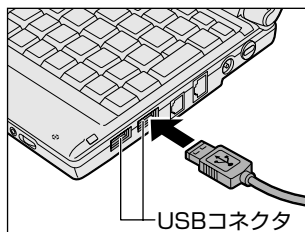
USB 対応機器を接続する

USB（ユーエスビー）コネクタに接続します。
USB 対応機器は、電源を入れたまま、取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。
USB 対応機器には次のようなものがあげられます。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ　など

取り付け

1 **USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む**

コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 **USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む**

この手順が必要ない機器もあります。

 USB 対応機器についての詳細 ➲『USB 対応機器に付属の説明書』

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- 今後出荷されるUSB対応機器については、動作確認ができていないためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

- USBコネクタの数が足りない場合は、市販されているUSBハブを使用してください。ハブを使うと最大で127台の周辺機器をつなぐことができます。接続できる最大数はハブによって異なります。

取りはずし

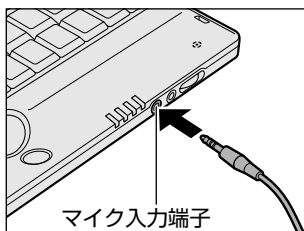
1 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

マイクロホンを接続する

マイク入力端子に接続します。
マイクのプラグは、直径3.5mm φステレオミニジャックまたは三極のミニジャックタイプをお使いください。

接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。

5 ヘッドホンを接続する

ヘッドホン出力端子に接続します。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mm φステレオミニジャックタイプをお使いください。
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、またはWindowsの「マスタ音量」で調節してください。

● **マスタ音量の起動方法**
タスクバーの［音量］アイコン（ ）をダブルクリック

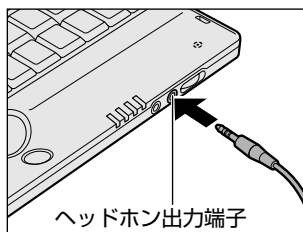
⚠ 注意

・ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。
耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えるおそれがあります。

● 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

接続

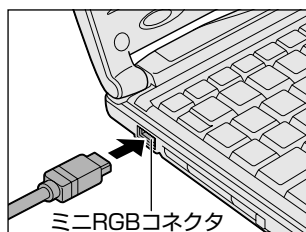
1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。

6 CRTディスプレイを接続する

同梱のミニRGBケーブルを使い、CRTディスプレイを接続します。CRTディスプレイは、パソコンの電源を切ってから接続してください。

接続

1 **ミニRGBケーブルのプラグをミニRGBコネクタに差し込む**

取りはずすときは、ミニRGBコネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。

2 **CRTディスプレイのケーブルのプラグをミニRGBケーブルのRGBコネクタに差し込む**

CRTディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れます。

3 **[コントロールパネル]を開き、[画面]アイコン( )をダブルクリックする**
または、
デスクトップ上の何もないところで右クリックし、[プロパティ]をクリックする

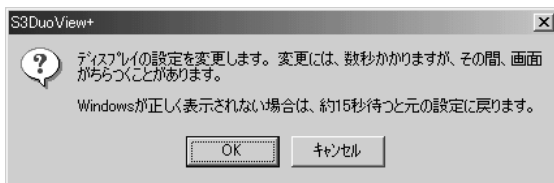
[画面のプロパティ]画面が表示されます。

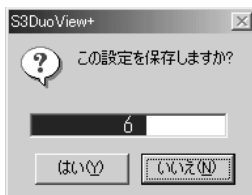
4 **[設定]タブで[詳細]ボタンをクリックする**

[(マルチモニタ)とS3 Graphics Inc. Savage/IX Display Driverのプロパティ]画面が表示されます。

5 ［S3DuoView+］タブの［表示デバイス選択］で［CRT］を選択する

6 ［OK］ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。

7 ［OK］ボタンをクリックする

次の画面が CRT ディスプレイに表示されます。

8 ［はい］ボタンをクリックする

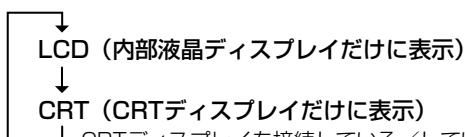
9 ［OK］ボタンをクリックする

CRTディスプレイまたは内部液晶ディスプレイだけに表示する

次の表示方法の場合は、設定は必要ありません。

- CRT ディスプレイだけに表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

■ Fn＋F5キーを使う

Fnキーを押したまま、F5キーを押すたびに切り替わります。

CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、この状態に切り替わります。CRTディスプレイが接続されていない場合も、内部液晶ディスプレイには何も表示されませんので、ご注意ください。

- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時に表示することはできません。
- CRT ディスプレイに表示した状態でパソコンの電源を切り、再びパソコンの電源を入れた場合、画面は内部液晶ディスプレイに表示されます。
  Fn＋F5キーで切り替えてください。

- 次のようなときには、表示方法を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。
  - ・データの読み込みや書き込みをしている間
    エラーになります。データのやりとりが完了するまで待ってください。
  - ・通信を行なっている間
    エラーになります。通信が完了するまで待ってください。

表示について

● CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

● CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時に表示することはできません。
● 省電力機能によりCRTディスプレイの表示が消えた場合、Shiftキーや Ctrl キーまたはアキュポイントⅡの操作により表示が復帰します。
このとき、表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますすが、故障ではありません。
● 1280 × 600 ドットの解像度で動画ファイル（AVI、MPEG ファイルなど）をフルスクリーン再生した場合、画像の一部が表示されません。
● 1280 × 600 ドットの解像度で CRT 表示した場合、表示画面の上下に黒い帯（非表示エリア）ができます。
● 本製品の内部液晶ディスプレイの解像度は、1280 × 600 ドットです。CRT ディスプレイに表示する場合は、1280 × 1024 ドット対応の CRT ディスプレイをお使いください。
1280 × 1024 ドットに対応していない CRT ディスプレイをお使いの場合は、CRT ディスプレイの解像度に合わせて、内部液晶ディスプレイの解像度を変更してください。
また、モニタ 2 の色数は、出荷時は「256 色」に設定されています。必要に応じて色数の設定を変更してください。

ビデオモードについて ➲「付録 1-2 サポートしているビデオモード」
画面の設定の変更について ➲《オンラインマニュアル》

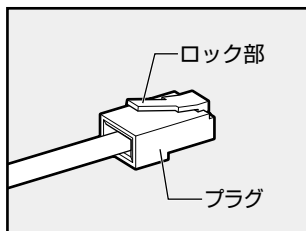
7 LANへ接続する

本製品には、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T)に対応したLANインタフェースが内蔵されています。本製品のLANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernetを自動的に検出して切り替えます。
ここでは、LANケーブルの接続、LANコネクタをご使用になる際の注意事項を説明します。

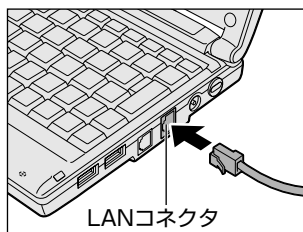
LANケーブルの接続

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）でご使用になるときは、必ずカテゴリ5（CAT5）のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ3のケーブルは使用できません。
10BASE-T規格（10Mbps）でご使用になるときは、カテゴリ3または5のケーブルが使用できます。

● **カテゴリ** ● ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもの。カテゴリ1～5まであり、数字が高いほど品質が高い。10BASE-Tではカテゴリ3以上、100BESE-TXではカテゴリ5のケーブルが使われる。

● LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行なってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをLANコネクタに差し込む

ロック部を手前にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『Windowsのヘルプ』をご覧ください。また会社や学校でお使いの場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

Windowsのネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

⚠ 注意

・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行なってください。

■ ネットワークの設定

1 Administrators グループのアカウントでログオンする

2 ［コントロールパネル］を開き、［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコン（ ）をダブルクリックする

3 ［ローカルエリア接続］アイコンにポインタを合わせて右クリックする

4 表示されたメニューから［プロパティ］を選択する

5 ネットワーク接続の設定を行う

セットアップ時に設定した構成になっています。
本製品の標準設定の場合、次のような設定になっています。

アダプタ　　：Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter（10/100）
クライアント：Microsoft ネットワーク用クライアント
サービス　　：Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
プロトコル　：TCP/IP（自動取得）

■ ネットワーク上でのコンピュータ識別

1 Administrators グループのアカウントでログオンする

2 ［コントロールパネル］を開き、［システム］アイコン（ ）をダブルクリックする

［システムのプロパティ］画面が表示されます。

3 ［ネットワーク ID］タブで、ネットワーク ID とプロパティの設定をする

コンピュータ名、ドメイン／ワークグループはセットアップ時に設定した構成になっています。
変更する場合はここで再設定してください。

メモリを増設する

増設メモリスロットに128MBまでの増設メモリを取り付けることができます。増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご購入ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 警告

・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

・ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
・増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
・次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
　・スタンバイ中
　・電源を切った直後
　　電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。
・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

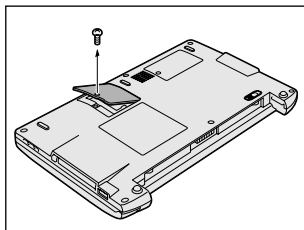
■ 静電気について

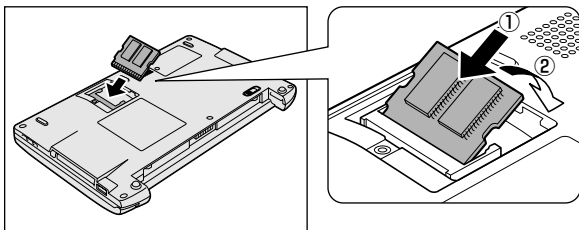
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

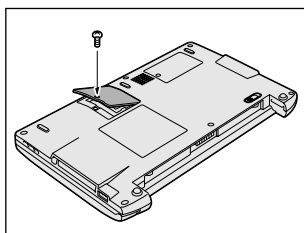
取り付け

1. データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
2. パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
3. パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックについて ➲「4 章 2-3 バッテリパックを交換する」

4. 増設メモリカバーのネジをはずし、増設メモリカバーをはずす

5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

6 増設メモリカバーをはめ、手順４ではずしたネジをとめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックについて ➲「4章 2-3 バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について ➲「本節 - メモリ容量の確認」

取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

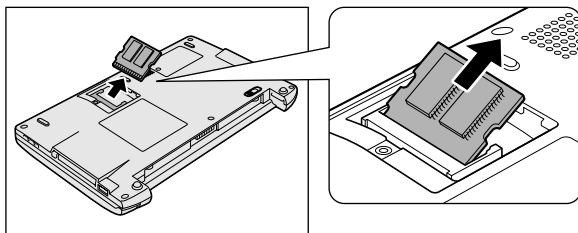
3 パソコン本体を裏返して、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックについて ➲「4 章 2-3 バッテリパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジをはずす

5 増設メモリカバーをはずす

6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

7 増設メモリカバーをはめる

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

8 手順４ではずしたネジでとめる

9 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックについて ➲「4 章 2-3 バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について ➲「本節 - メモリ容量の確認」

メモリ容量の確認

● システムがメインメモリ領域の約16MB分を使用するため、「PC診断ツール」や［システムのプロパティ］で表示されるメモリ容量は、実際の容量より少なく表示されます。

■「PC診断ツール」で確認する

① ［スタート］→［プログラム］→［東芝ユーティリティ］→［PC診断ツール］をクリックする
② ［基本情報の表示］ボタンをクリックする
③ ［メモリ］の数値を確認する

■［システムのプロパティ］で確認する

① ［コントロールパネル］を開き、［システム］をダブルクリックする
② ［全般］タブのRAMの数値を確認する

6章
困ったときは

Q&A 集を見る前に

1 トラブルを解消するまで

パソコンが動かなくなった！ 今までとは違う動きをする！ なんだか変！ 不安だ！
そんなときには次の順番で解決へのアプローチをたどってください。

Step 1 本書をお読みください

パソコンについてよく問い合わせのあるトラブルの解消方法が、
「本章 2 Q&A 集」で説明されています。

Step 2 『オンラインマニュアル』やヘルプで調べてください

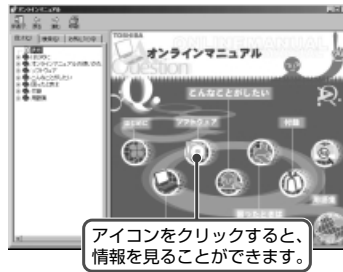
■『オンラインマニュアル』を見る

『オンラインマニュアル』にも、困ったときの解消方法が説明されています。
次のようなときは、パソコン上で『オンラインマニュアル』をご覧ください。

- プレインストールされているアプリケーションを知りたい
- 本製品をいろいろなことに活用する方法を知りたい
- パソコンの操作に困ったとき
- 用語を知りたい

1 パソコン本体の電源を入れる

2 ［スタート］→［オンラインマニュアル］をクリックする
デスクトップ上の［オンラインマニュアル］アイコンをダブルクリックしても起動できます。

『オンラインマニュアル』が起動します。

3 見たい項目のアイコンをクリックする

■ Windows のヘルプを見る

Windows については、『クイックスタートガイド』や『Windows のヘルプ』をご覧ください。

1 パソコン本体の電源を入れる

2 [スタート] → [ヘルプ] をクリックする

■アプリケーションのヘルプを見る

アプリケーションについては、『各アプリケーションに付属の説明書』や、ヘルプをご覧ください。

Step 3 インターネットで調べましょう

「dynabook.com」や会員専用ホームページ「東芝 PC Member's Club」で調べてみましょう。Librettoの技術情報などが掲載されています。

■「dynabook.com」を見よう

東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」では、Librettoの最新情報を提供しています。

URL　http://dynabook.com/

Librettoのサポート情報については、次のページをご覧ください。

URL　http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm
（サポート情報）

■会員専用ホームページ「東芝PC Member's Club」を見よう

「東芝PC Member's Club」は、東芝パソコンご愛用者だけのインターネット情報サービスです。お得な情報が満載です。

URL　http://www5.toshiba.co.jp/tpmc/

東芝PC Member's Clubへのご入会には、お客様登録をしていただく必要があります。
お客様登録は、東芝PC Member's Clubのホームページから行うこともできます。

参照 お客様登録について ➲「1章 2 ユーザ登録をする」

「東芝PC Member's Club」の主な内容　（2001年8月現在）

- 会員専用ホームページ
  東芝PC Member's Clubにご入会いただいた方だけが、アクセスできるホームページです。
- 東芝PCメンバーズクラブニュース＆マガジン（メール配信サービス）
  東芝パソコンの新製品情報・イベント情報などをあなたの電子メールアドレスに直接お届けする“電子メールニュース・サービス”です。

最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。ご了承ください。

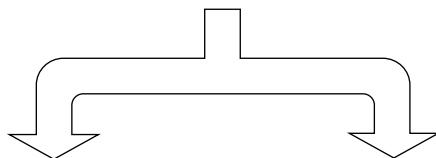
この他、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。

参照 ホームページアドレスについて

➲「付録 6 アプリケーションのお問い合わせ先」

＜パソコン本体のトラブル＞

Step 4
「東芝 PC ダイヤル」に問い合わせる

「付録 7 トラブルチェックシート」で必要事項を確認し、お問い合わせください。

＜インストールされている
アプリケーションのトラブル＞

Step 4
各アプリケーションのサポート先に問い合わせる

各ソフトウェアのお問い合わせ先については、「付録 6 アプリケーションのお問い合わせ先」をご覧ください。

● Libretto の故障や修理など、サポート情報については、同梱の『東芝 PC サポートのご案内』をご覧ください。

2 トラブル解消に役立つ操作

設定をするときによく使う操作を説明します。

コントロールパネルの開きかた

コントロールパネルは、パソコンの設定をするときによく開くフォルダです。

■ 方法1 -［スタート］メニューから開く

1 ［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］をクリックする

■ 方法2 -［マイコンピュータ］から開く

1 デスクトップの［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックする

2 ［コントロールパネル］アイコンをダブルクリックする

2 Q&A 集

パソコン本体を使っていてうまく操作できないとき、動作がおかしいと感じたときの解消法のヒントをご紹介します。

電源を入れるとき / 切るとき

電源スイッチを押しても反応しない

電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
Power ⏻ LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押し続けてください。

1 度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

（Battery ▭ LED がオレンジ色に点滅している場合）

バッテリの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行なってください。

- 本製品用の AC アダプタを接続し、電源を供給する
  他製品用の AC アダプタは使用できません。
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリについて ➲「4 章 2 バッテリを充電する」

1 度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

（DC IN LED がオレンジ色に点滅している場合）

電源の接続の接触が悪い可能性があります。
バッテリパックや AC アダプタを接続し直してください。

参照 バッテリパックの取り付け／取りはずし
➲「4 章 2-3 バッテリパックを交換する」

参照 AC アダプタの接続 ➲「1 章 1-2 電源コードと AC アダプタを接続する」

A 危険防止機能が働いた可能性があります。
次の対処を行なってください。

- パソコンを涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待つ
  パソコン内部温度の上昇が一定以上に達すると、危険防止機能が働き、システムが自動停止します。
- 通風孔のまわりには物を置かない
  通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。

以上の手順でも解決できない場合は、お近くの保守サービスにご連絡ください。

Q 自動的に電源が入ってしまう

A Windowsのタスクスケジューラで設定されている可能性があります。
タスクスケジューラで［タスクの実行時にスリープを解除する］に設定されていると、スタンバイ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。
次の手順で設定を変更できます。

① ［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする
② 設定されているタスクをダブルクリックする
電源が入った時間などを参考に選択してください。
③ ［設定］タブの［電源の管理］で［タスクの実行時にスリープを解除する］のチェックをはずす
④ ［OK］ボタンをクリックする

A パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。
パネルスイッチ機能とは、ディスプレイを閉じると電源を切り、開けると電源スイッチを押さなくても自動的に電源を入れる機能です。
次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［東芝省電力］をダブルクリックする
② ［電源設定］タブで利用する省電力モードを選択して、［詳細］ボタンをクリックする
③ ［動作］タブの［コンピュータを閉じたとき］で［何もしない］を選択する
④ ［OK］ボタンをクリックする
⑤ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

Q 使用中に突然電源が切れてしまった

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると危険防止機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、お近くの保守サービスにご連絡ください。

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power ⏻ LED が点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
次の操作を行なってください。

- (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す
- アキュポイントⅡを操作する

A Power ⏻ LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。
一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。
電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［東芝省電力］をダブルクリックする
② ［電源設定］タブで利用する省電力モードを選択し、［詳細］ボタンをクリックする
③ ［省電力］タブで［システムスタンバイ］および［システム休止状態］の設定を［なし］にする
④ ［OK］ボタンをクリックする
⑤ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

参照 スタンバイ、休止状態について
➲「4章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

Q Windowsの起動と同時にプログラムが実行される

A ［スタートアップ］にプログラムが設定されている可能性があります。
［スタートアップ］は、設定されているプログラムをWindows起動時に自動的に実行します。
アプリケーションをインストールすると、自動的に［スタートアップ］に登録される場合があります。
次の手順でプログラムを削除できます。

① ［スタート］→［設定］→［タスクバーと［スタート］メニュー］をクリックする
② ［詳細］タブで［削除］ボタンをクリックする
［ショートカットやフォルダの削除］画面が表示されます。
③ ［スタートアップ］をダブルクリックする
④ 削除したいプログラムのアイコンをクリックし、［削除］ボタンをクリックする
確認メッセージが表示されます。
⑤ ［はい］ボタンをクリックする
⑥ ［ショートカットやフォルダの削除］画面で［閉じる］ボタンをクリックする
⑦ ［タスクバーとスタートメニューのプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

A Windowsのタスクスケジューラで設定されている可能性があります。
タスクスケジューラで［実行する］に設定されていると、設定したスケジュールに従ってタスクを実行します。
アプリケーションをインストールすると、自動的にタスクが登録される場合があります。
次の手順で設定を変更できます。

① ［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする
② 設定されているタスクをダブルクリックする
プログラムが実行された時間などを参考に選択してください。
③ ［タスク］タブで［実行する］のチェックをはずす
④ ［OK］ボタンをクリックする

パソコンが休止状態にならない

休止状態に対応していない周辺機器（PC カードなど）を取り付けていると休止状態になりません。
休止状態に対応していない周辺機器を取りはずしてから、休止状態を実行してください。

［スタートアップ］に休止状態の妨げになるアプリケーションが設定されている可能性があります。
［スタートアップ］からそのアプリケーションを削除し、Windows を再起動してください。

参照 スタートアップに登録されているアプリケーションの削除方法
➲「Q&A 集 本節 - Q.Windows の起動と同時にプログラムが実行される」

休止状態を設定できない

休止状態の設定になっていない可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［東芝省電力］をダブルクリックする
② ［休止状態］タブで［休止状態をサポートする］をチェックする（☑）
③ ［OK］ボタンをクリックする

参照 休止状態について
➲「4 章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

画面/表示

画面に何も表示されない

（Power ⏻ LED が消灯、またはオレンジ色に点滅している場合）

電源が入っていない、またはスタンバイ状態になっています。
電源スイッチを押してください。

電源は入っているが、画面に何も表示されない

（Power ⏻ LED が点灯している場合）

表示自動停止機能が働いた可能性があります。
次の操作を行なってください。

- Shiftキーや Ctrlキーを押す
- アキュポイントⅡを操作する

- CRT ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

スクリーンセーバーが働いた可能性があります。
次の操作を行なってください。

- スクリーンセーバーパスワードを設定していない場合
  Shiftキーや Ctrlキーを押すか、アキュポイントⅡを操作する
- スクリーンセーバーパスワードを設定している場合
  スクリーンセーバーパスワードを入力し、Enterキーを押す

参照 スクリーンセーバーパスワードについて
➲「4章 4-4 スクリーンセーバーパスワード」

表示装置が適切に設定されていない可能性があります。
次の操作を行なってください。

- Fn＋F5キーを押して表示装置を切り替える

参照 詳細について ➲「5章 6 CRT ディスプレイを接続する」

Q 画面が見にくい

A ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

Q 画面が暗い

A 画面の輝度が低く設定されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

- Fn＋F7キーを押して画面の輝度を上げる（明るくする）
  Fn＋F6キーを押すと画面の輝度は下がります。

A 省電力ユーティリティでモニタの輝度が低く設定されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［東芝省電力］をダブルクリックする
② ［電源設定］タブで利用する省電力モードを選択して、［詳細］ボタンをクリックする
③ ［省電力］タブで［モニタの輝度］を設定する
④ ［OK］ボタンをクリックする
⑤ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

設定を変更しても明るくならない場合は、ディスプレイに取り付けられているサイドライト用のFL管（冷陰極管）が消耗している可能性があります。サイドライト用のFL管（冷陰極管）は、ご使用になるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、お使いの機種をご確認後、お近くの保守サービスにご連絡ください。有償にて交換いたします。

Q 画面の外側に黒い枠が表示される

A 低い解像度に設定されています。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［画面］をダブルクリックする
② ［設定］タブの［画面の領域］で領域サイズを変更する
③ ［OK］ボタンをクリックする

画面の色がはっきりしない

色数が少ない場合に起こります。
色数の種類は「256色」「High Color（16ビット)」「True Color（32ビット)」から選択します。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［画面］をダブルクリックする
② ［設定］タブで［画面の色］を「High Color（16ビット)」や「True Color（32ビット)」に設定する
③ ［OK］ボタンをクリックする

［画面のプロパティ］で［画面の領域］や［画面の色］を変更できない

［ディスプレイ］の設定があっていない可能性があります。
次の手順で確認してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［システム］をダブルクリックする
② ［ハードウェア］タブの［デバイスマネージャ］で［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
③ ［ディスプレイアダプタ］の［S3 Graphics Inc. Savage/IX Display Driver］が正しく設定されているか確認する
④ ［OK］または［閉じる］ボタンをクリックする

CRTディスプレイで画面の色がにじんだように表示される

テレビ、オーディオ機器のスピーカなど強力な磁気を発生する電気製品の近くに設置している場合は、遠ざけてください。

● 高圧電線の近くの建物の場合は、パソコン本体を置く位置を変えることによって、画像の乱れが直る場合もあります。

Windows

内蔵時計が合っていない

A 次の手順で［日付と時刻］を修正してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［日付と時刻］をダブルクリックする
［日付と時刻のプロパティ］画面が表示されます。

② ［時刻］に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。

③ デジタル時計の右端にある上下のボタン（ ）で、時刻の修正を行う

④ ［OK］ボタンをクリックする

A 長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリの充電が不十分になります。
パソコン本体の電源を入れて、時計用バッテリを充電してください。

A 充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリの充電機能が低下している可能性があります。
お近くの保守サービスにご連絡ください。

Q パソコンの処理速度が遅くなった

A 「東芝省電力ユーティリティ」の設定で、CPU の処理速度が切り替わった可能性があります。また、ご購入時の状態の省電力モードは、AC アダプタを接続しているときは［フルパワー］、バッテリ駆動で使用するときは［ノーマル］に設定されていますので、AC アダプタ接続時に比べてバッテリ駆動時のパソコンの処理速度は遅くなります。

CPU の処理速度は次の手順で変更できます。

① ［コントロールパネル］を開き、［東芝省電力］をダブルクリックする
［東芝省電力のプロパティ］画面が表示されます。
② 利用したい省電力モードを選択し、［詳細］ボタンをクリックする
③ ［省電力］タブで次の項目を設定する
- ［Transmeta Crusoe(TM) Processor］に表示されたメニューから処理速度を設定する

④ ［OK］ボタンをクリックする
⑤ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

参照 省電力モードについて ➲「4 章 3 省電力ユーティリティを使う」

A パソコンの CPU が高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。
しばらく作業を中止すると、CPU の温度が下がり処理速度が元に戻ります。

A ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。
不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

バッテリ駆動で使用するとき

警告音が鳴り、Battery LED が点滅した

バッテリの充電量が残り少ない状態です。
ただちに次のいずれかの対処を行なってください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。
休止状態が無効の場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、作業中のデータが消失するおそれがあります。休止状態を有効にしておくことをおすすめします。ご購入時は有効に設定されています。
また、データはこまめに保存してください。

参照 バッテリの充電方法 ➲「4 章 2-2 バッテリを充電する」

充電したはずのバッテリパックを使用しても Battery LED がオレンジ色に点滅する

バッテリパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。
もう 1 度充電してください。
充電しても状態が変わらない場合は、バッテリパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリパックと交換してください。
それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。お近くの保守サービスにご連絡ください。

参照 バッテリの充電量について ➲「4 章 2-1 バッテリ充電量を確認する」

Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる

A 一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にし、システムの動作をオフにするように設定されています。
設定を解除してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［東芝省電力］をダブルクリックする
② ［電源設定］タブで利用する省電力モードをクリックし、［詳細］ボタンをクリックする
③ ［省電力］タブで［システムスタンバイ］および［システム休止状態］の設定を［なし］にする
④ ［OK］ボタンをクリックする
⑤ ［東芝省電力のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

キーボード

「＼」（バックスラッシュ）が入力できない

A 日本語フォントでは「＼」は入力できません。
[＼ろ] を押すと¥が表示されますが、同じ機能を持ちます。

キーボードで入力モードを切り替えたい

A ショートカットキーを利用して入力モード（ひらがな入力、ローマ字入力、半角英数入力、大文字ロック状態など）を変更できます。
(Shift)＋(CapsLock英数)キーや、(Fn)＋(F11)キー、(Fn)＋(F10)キー、(Ctrl)＋(Shift)＋(カタカナひらがな)キーを使って、文字入力の状態を合わせてから入力してください。

参照 詳細について ➲「3章 8 キーボード」

記号や特殊文字が入力できない

A 次の手順で文字コード表から希望の文字を探してください。

① ［スタート］→［プログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［文字コード表］をクリックする
［文字コード表］が表示されます。
② ［フォント］を選択し、［文字コード表］の使用したい文字をダブルクリックする
③ ［コピー］ボタンをクリックする
④ 文書を開いているアプリケーションのメニューから［編集］→［貼り付け］をクリックする
文書に手順②で指定した文字が挿入されます。挿入された文字には、手順②で選択したフォントを指定してください。

A MS-IME には［IME パッド］という機能があります。
この一覧から希望の文字を捜すことができます。

参照 詳細について ➲『MS-IME のオンラインヘルプ』

Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう

A キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。
次の手順でドライバを再設定してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［システム］をダブルクリックする
［システムのプロパティ］画面が表示されます。
② ［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
③ ［キーボード］にある［XXXXX キーボード］をダブルクリックする
④ ［ドライバ］タブで［ドライバの更新］ボタンをクリックする
［デバイスドライバのアップグレードウィザード］画面が表示されます。
⑤ ［次へ］ボタンをクリックする
⑥ ［このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
⑦ ［このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示］をクリックする
［製造元］と［モデル］の一覧が表示されます。
⑧ ［製造元］から［(標準キーボード)］、［モデル］から［日本語 PS/2 キーボード（106/109 キー)］を選択して、［次へ］ボタンをクリックする
［ドライバの更新警告］画面が表示されます。
⑨ ［はい］ボタンをクリックする
［デバイスドライバのインストールの開始］画面が表示されます。
⑩ ［次へ］ボタンをクリックする
［デバイスのインストールの確認］画面が表示されます。
⑪ ［はい］ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、［デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了］画面が表示されます。
⑫ ［完了］ボタンをクリックする
⑬ ［閉じる］ボタンをクリックする
「今コンピュータを再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
⑭ ［はい］ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

Q どのキーを押しても反応しない 設定は合っているが、希望の文字が入力できない

A 次の手順で［Windows のシャットダウン］から再起動してください。

① ［スタート］→［シャットダウン］をクリックする
② ［再起動］を選択する
③ ［OK］ボタンをクリックする

A ［Windowsのシャットダウン］から再起動できない場合は、(Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押して、再起動してください。この場合、保存していない作成中のデータは消去されます。

参照 (Ctrl)+(Alt)+(Del)キーでの再起動について
➲「Q&A 集 その他 - Q. パソコンが反応しない」

A (Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを 5 秒以上押してください。電源が切れます。この場合、保存していない作成中のデータは消去されます。
しばらくしてから電源を入れ直してください。

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。もし、液体がパソコン内部に入ったときは、電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、ただちにお買い求めの販売店、または保守サービスに点検を依頼してください。

サウンド機能

スピーカから音が聞こえない

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続したままになっていませんか？
ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。

パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調節してください。

システムスピーカが無効になっている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［東芝 HW セットアップ］をダブルクリックする
② ［アラーム］タブで［システムビープ音を鳴らす］をチェックする（☑）
③ ［OK］ボタンをクリックする

音量の設定で［ミュート］にチェックが入っていませんか？
次の手順で変更してください。

① タスクバーの［音量］アイコンをクリックする
② ［ミュート］にチェック（☑）がついている場合は、チェックをはずす
③ つまみをドラッグして調整する
つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。

標準の［優先するデバイス］が変更されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［サウンドとマルチメディア］をダブルクリックする
② ［オーディオ］タブで［音の再生］の［優先するデバイス］を正しく設定する
③ ［OK］ボタンをクリックする

上記の操作を行なっても音量が変わらなければ、標準のサウンド用デバイスドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。
付属の「アプリケーション CD」からサウンド用デバイスドライバ「ALi Audio Accelerator WDM Driver」を再インストールしてください。

音楽CDやゲームのBGMがパソコン本体のスピーカから聞こえない

次の手順で、CD再生機器でデジタル音楽CDを使用する設定をしてください。

① パソコン本体にCD-ROMドライブを接続する
② [コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする
③ [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
④ [DVD/CD-ROMドライブ] の左側の ⊞ をクリックする
⑤ CD-ROMドライブを選択してダブルクリックする
⑥ [プロパティ] タブで [このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする] をチェックし、[OK] ボタンをクリックする

サウンドレコーダーで録音したが音質がよくない

次の手順で録音時のサンプリング周波数を変更してください。

① [スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [サウンドレコーダー] をクリックする
② [ファイル] → [プロパティ] をクリックする
③ [詳細] タブで [形式の変換] の [変換] ボタンをクリックする
[サウンドの選択] 画面が表示されます。
④ [属性] 欄で属性を選択する
CDの音質の場合、属性は [44.100kHz 、16ビット、ステレオ] です。これを目安に属性を選択してください。ただし高音質にすると、データ量が増大し、録音できる時間は短くなります。例えば外部マイクを使用して録音するときは属性をモノラルに設定するなど、なるべくデータ容量を少なくしてください。
⑤ [名前を付けて保存] ボタンをクリックする
⑥ [新しいファイル名] に名前を入力し、[OK] ボタンをクリックする
⑦ [サウンドの選択]、[Soundのプロパティ] 画面をそれぞれ [OK] ボタンをクリックして閉じる
[サウンドレコーダー] の画面に戻ったら、実際に録音して再生音を確認してください。

メモ

- サウンドレコーダーで新しい録音を開始すると、[サウンド名] は以前の設定に戻ります。もう1度設定し直してください。

別売りの外付けCD-ROMドライブ（型番：PA2673UJ）または外付けCD-R/RWドライブ（型番：PACDR002）を接続し、音楽CDをWindows Media Playerで再生しながらサウンドレコーダで録音をすると、音声に混じって雑音が録音される

CD-ROMドライブまたはCD-R/RWドライブのPCカードのモードスイッチを「16bit」に設定してお使いの場合は、録音時に雑音が録音されます。モードスイッチを「Cardbus」に設定してお使いください。

WAVEファイルなどを再生したときに音が鳴らない、もしくは音の最初の部分が聞こえない

［ALiサウンドセットアップ］の設定で、［同時にアンプの電源も切る］にチェックがついていると、アンプの電源を切るので、バッテリ駆動時間が少し延びますが、WAVEファイルなどを再生したときに、0.5秒ほど音が鳴らないことがあります。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［ALiサウンドセットアップ］をダブルクリックする
② ［同時にアンプの電源も切る］のチェックがついている場合は、チェックをはずす

通常は、［同時にアンプの電源を切る］のチェックをはずした状態（ご購入時の状態）でお使いください。

XGフォーマットのMIDIファイルをWindows Media Playerで再生できない、またはWindows Media Playerが応答なしになる

本製品はXGフォーマットのMIDIファイルをサポートしておりません。
XGフォーマットのMIDIファイルを再生する場合は、YAMAHAのソフトシンセサイザアプリケーションをご購入ください。

サウンド再生時に音飛びが発生する

PCカード接続のハードディスクドライブやCD-ROMドライブなどの動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。

LAN機能

Q ネットワークに接続できない

A ネットワークの設定が正しく無い可能性があります。
次の点を確認してください。

- Windowsのネットワーク設定を確認する
- 相手先のネットワーク機器（HUB）などの設定を確認する
- ケーブルの状態を確認する

PC カード

PC カードが認識されない

A PC カードが奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

参照 PC カードの接続について ➲「5 章 2 PC カードを接続する」

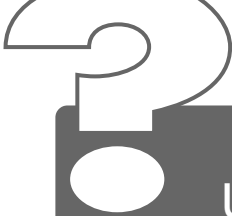
PC カードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

A PC カードによっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
詳しくは、『PC カードに付属の説明書』をご覧ください。

A 本製品は Windows 専用モデルです。MS-DOS プロンプト上での PC カードの使用はサポートしておりません。

PC カードは認識されるが使用できない

A IRQ が不足している可能性があります。
次の手順で使用しないデバイスを［デバイスマネージャ］で使用不可にしてください。

① ［コントロールパネル］を開き、［システム］をダブルクリックする
② ［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
③ ［デバイスマネージャ］で使用しないデバイスの左の ⊞ をクリックする
④ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、［無効］をクリックする
確認のメッセージが表示されます。
⑤ ［はい］ボタンをクリックする
⑥ ［デバイスマネージャ］画面を閉じる
⑦ ［システムのプロパティ］画面で［OK］、または［閉じる］ボタンをクリックする

USB 対応機器

USB 対応機器が使えない

A 何らかの原因で、システム（OS）が正しく USB 対応機器を認識していない可能性があります。Windows を再起動してください。

A ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。
次の手順で「ハードウェアの追加と削除ウィザード」を実行してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［ハードウェアの追加と削除］をダブルクリックする
② ［次へ］ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない

A 休止状態に対応していない USB 対応機器を接続している可能性があります。
USB 対応機器を USB コネクタから取りはずし、もう 1 度接続してください。

メモリ

「PC 診断ツール」や［システムのプロパティ］などで、メモリ容量が実際とは異なって表示される

システムがメインメモリ領域の約 16MB 分を使用するため、「PC 診断ツール」や［システムのプロパティ］などで表示されるメモリ容量は、実際の容量より少なく表示されます。

アプリケーション

アプリケーションが使えない

正しくインストールされていない可能性があります。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、正しくインストールしてください。

システム（OS）に対応していない可能性があります。
アプリケーションによっては使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』をご覧ください。

メモリが足りない可能性があります。
アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量がない場合は、そのアプリケーションを使用することはできません。必要なメモリ容量は、『アプリケーションに付属の説明書』をご覧ください。

参照 メモリの増設について ➲「5章 8 メモリを増設する」

アプリケーションによっては、システム構成の変更が必要です。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、システム構成を変更してください。

Q アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。終了後、もう 1 度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows のセキュリティ］画面が表示されます。

②［タスクマネージャ］ボタンをクリックする
［Windows タスクマネージャ］画面が表示される

③［アプリケーション］タブで［応答なし］と表示されているアプリケーションのタスクをクリックする

④［タスクの終了］ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。

⑤［Windows タスクマネージャ］画面を閉じる

Q 購入時に入っていたアプリケーションを誤って削除してしまった

A 本製品にあらかじめインストールされている（プレインストールされている）アプリケーションやドライバは「アプリケーション CD」から再インストールできます。

メッセージ

「Password=」と表示された

パスワードが設定されています。
「東芝HWセットアップ」で設定したパスワードを入力し、Enterキーを押してください。
パスワードを忘れた場合は、キーフロッピーディスクを使用してください。
キーフロッピーディスクがない場合は、お使いの機種をご確認後、お近くの保守サービスにご連絡ください。有償にてパスワードを解除いたします。その際、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照 パスワードの入力について ➲「4章 4 パスワードセキュリティ機能を使う」

「入力されたパスワードが間違っています」と表示された

大文字ロック状態でパスワードを入力した可能性があります。
Shift+CapsLock 英数キーを押して大文字ロック状態を解除し、もう1度入力してください。

「Previous resume from hibernate failed. Would you like to try again [Enter=Y,Esc=N]?」と表示された

休止状態が無効になったというメッセージです。
電源を切る前の状態は再現できません。Enterキーを押してください。
もう1度同じメッセージが表示された場合は、Escキーを押してください。

使用中突然「このプログラムは不正な処理を行ったので…」と表示された

ソフトウェアの内部処理がうまくいきませんでした。
画面の指示に従い、[閉じる] ボタンをクリックし、パソコンを再起動してください。
このとき、作成中のデータは保存されない場合があります。

次のようなメッセージが表示された

- 「Insert system disk in drive.Press any key when ready」
- 「Non- System disk or disk error Replace and press any key when ready」
- 「Invalid system disk Replace the disk,and then press any key」
- 「Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk」
- 「Disk I/O error Replace the disk,and then press any key」
- 「Cannot load DOS press key to retry 」

次の操作を行なってください。

- 別売りのフロッピーディスクドライブを取り付けている場合は、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、何かキーを押す
- システムディスクをセットし、何かキーを押す

C:¥>_ と表示された

MS-DOS プロンプトが全画面表示されています。
次の操作を行なってください。

●方法 1 − MS-DOS プロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える

- Alt＋Enterキーを押す

●方法 2 − MS-DOS プロンプト画面を終了する

① EXITとキーを押す
② Enterキーを押す

その他のメッセージが表示された

ご使用のシステムやアプリケーションの説明書をご覧ください。

その他

パソコン本体からカリカリと変な音がする

ハードディスクが自動保存を行なっています。
パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。
極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、お買い求めの販売店またはお近くの保守サービスまでご連絡ください。

甲高い音がする

ハウリングを起こしています。
ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。
使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。
次の方法で調整してください。

- 外部マイクをパソコン本体から遠ざける
- パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調整する
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- Windows 上から音量の設定を調整する

参照 音量の調整について ➲「3章 5 音量の調節」

テレビやラジオの音が聞こえてくる

モジュラーケーブルがテレビやラジオの音を拾っている可能性があります。
モジュラーケーブルを延長して、パソコン本体と電話回線を接続している場合は、標準のモジュラーケーブルのみを使用して確認してください。また、モジュラーケーブルにノイズ除去用部品を取り付けてください。それでも解決できない場合は、電話回線自体がノイズを拾っている可能性があります。ご契約の電話会社に相談してください。

パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

次の操作を行なってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平衡フィーダを同軸ケーブルに替える

パソコンが応答しない

応答しないアプリケーションを強制終了してください。

参照 対処方法について

➲「Q&A 集 アプリケーション -Q. アプリケーションが操作できなくなった」

アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行なってください。

Windows を強制終了し、再起動してください。
強制終了の方法は、次のとおりです。
システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行なうと、スタンバイ機能／休止状態は無効になります。また、保存していないデータは消去されます。

① Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows のセキュリティ］画面が表示されます。
② ［シャットダウン］ボタンをクリックする
アキュポイントⅡやマウスで操作できない場合は、Alt＋Sキーを押してください。
③ ［シャットダウン］を選択し、［OK］ボタンをクリックする
アキュポイントⅡやマウスで操作できない場合は、↑キーや↓キーで［シャットダウン］を選択し、Enterキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。
④ パソコン本体の電源を入れる

Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてから販売店または保守サービスにご連絡ください。
なお、ご連絡の際には次のことをお知らせください。

- 使用している機器の名称
- ご購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しくご連絡ください）

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A 「付録 7 トラブルチェックシート」で、必要事項をご確認のうえ、東芝 PC ダイヤルにご連絡ください。

7章
再セットアップ

再セットアップとは

同梱されているリカバリ CD を使って、システムやアプリケーションをご購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。

1 再セットアップが必要なとき

次のようなときに、再セットアップしてください。

- C ドライブをフォーマットしてしまった
- ハードディスク内のシステムファイルを削除してしまった
- 電源を入れても、システム（Windows）が起動しない
- プレインストールされていたアプリケーションを削除したが、もう 1 度インストールしたい　など

2 再セットアップする前に

「6 章 困ったときは」に、いろいろなトラブル解決方法が書かれています。そちらをご覧のうえ、解決できないときに再セットアップしてください。
再セットアップすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。ご購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめバックアップをとって保存してください。
また、インターネットやハードウェアなどの設定は、すべてご購入時の状態に戻ります。再セットアップ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

- Outlook Express のデータの保存は Outlook Express のエクスポート機能を使うと便利です。
  詳しくは『Outlook Express のヘルプ』をご覧ください。

2 リカバリ CD とは

本製品にはリカバリ CD（「Product Recovery CD-ROM」）が同梱されています。
リカバリ CD は、再セットアップのときに使用します。

参照 詳細について ➲「本章 3 標準システムを復元する」

本製品には、アプリケーション CD（「Application CD-ROM」）も同梱されています。アプリケーション CD は、本製品で用意されているアプリケーションが入っています。
用意されているアプリケーションなどの一覧および概要、注意事項とインストール方法については、アプリケーション CD をセットし、表示される画面をご覧ください。

● リカバリ CD ／アプリケーション CD は絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。

3 標準システムを復元する

本製品にプレインストールされているWindowsやアプリケーションをすべて復元し、ご購入時の状態に戻します。

1 はじめる前に

■ 必要なもの

- Product Recovery CD-ROM
- 取扱説明書（本書）
- 外付けCD-ROMドライブ（別売り）
  ・CD-ROMドライブ（型番：PA2671UJ、PA2673UJ）
  ・CD-R/RWドライブ（型番：PACDR002）

- 外付けCD-ROMドライブ「PA2673UJ」または外付けCD-R/RWドライブ「PACDR002」をお使いの場合は、PCカード側面のモード切替スイッチを［16bit］側に設定してください。

「標準システムインストール起動ディスク」を使用すると、使用できるCD-ROMドライブの種類が増えます。

詳細について ➲「本章 4 標準システムインストール起動ディスクを使う」

■ 準 備

- 必要なデータを保存する
  システムを復元すると、ハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは、あらかじめバックアップをとって保存してください。
- パソコンを購入時の状態に戻す
  増設したハードディスクドライブやメモリなど、ご購入後に追加した周辺機器を取りはずしてください。

参照

周辺機器の取りはずし ➲「5章 Librettoを拡張する」

2 操作手順

1 パソコンの電源を切る

2 パソコンをご購入時の状態に戻す

周辺機器は取りはずしてください。

3 パソコンにCD-ROMドライブを接続する

パソコンのPCカードスロットにCD-ROMドライブのPCカードを接続します。
「標準システムインストール起動ディスク」を使用すると、使用できるCD-ROMドライブの種類が増えます。

参照 詳細について ➲「本章 4 標準システムインストール起動ディスクを使う」

4 「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットする

5 キーボードの(C)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

「復元を開始します！よろしいですか？」というメッセージが表示されます。

6 復元を行う場合は(Y)キーを、行わない場合は(N)キーを押す

(Y)キーを押すと、「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

7 復元を続行する場合は(Y)キーを、復元を中止する場合は(N)キーを押す

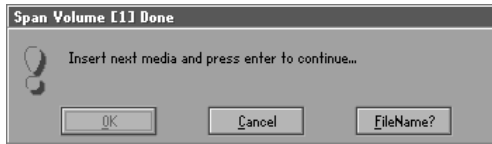
8 表示される次のメッセージを確認し、何かキーを押す

ここで表示される画面は、復元の途中で表示されるメッセージについての説明です。内容をご確認のうえ、そのまま何かキーを押してください。

復元中は、次の画面が表示されます。
復元の進行状況を示すグラフ表示が、100%のところに達し、もう 1 度グラフ表示が 100%に達すると完了です。

（表示例）

9 表示されるメッセージに従って復元を行う

復元中に次のメッセージが表示された場合、CD を入れ替え、Enterキーを押してください。処理が続きます。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

10 CD を取り出し、パソコンから CD-ROM ドライブを取りはずしてから、何かキーを押す

システムが再起動します。

11 Windows のセットアップを行う

参照 Windows のセットアップ ➲「1 章 1 Windows のセットアップ」

ご購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、お客様ご自身で追加されたアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行なってください。

参照 周辺機器の接続 ➲「5 章 Libretto を拡張する」

4 標準システムインストール起動ディスクを使う

標準システム（ご購入時のシステム）の復元を行うには、使用するCD-ROMドライブによって方法が異なります。

■ 次の外付けCD-ROMドライブ（別売り）を使用する場合

- CD-ROMドライブ（型番：PA2671UJ、PA2673UJ）
- CD-R/RWドライブ（型番：PACDR002）

CD-ROMから起動して標準システムの復元を行なうことができます。

参照 標準システムの復元について ➲「本章 3 標準システムを復元する」

■ 上記以外のPCカード接続CD-ROMドライブを使用する場合

次の手順に従って「標準システムインストール起動ディスク」を作成することで、標準システムの復元を行うことができます。
「標準システムインストール起動ディスク」を作成するには、USB接続フロッピーディスクドライブ（別売り）が必要です。
なお、フロッピーディスクはあらかじめフォーマットして、ラベル（「標準システムインストール起動ディスク」）を付けておいてください。

作成方法

1. フォーマット済みのフロッピーディスクを1枚用意し、ラベル（「標準システムインストール起動ディスク」）を付ける
2. パソコンにフロッピーディスクドライブを接続し、フロッピーディスクを入れる
3. ［スタート］→［プログラム］→［東芝ユーティリティ］→［標準システムインストール起動ディスクの作成］をクリックする

4 使用する CD-ROM ドライブのメーカ、および機種名を選択する

メニュー一覧にお持ちの CD-ROM ドライブが表示されていない場合は、［手動インストール］を選択して、手動で設定を行なってください。

使用方法

1 Windows を終了してパソコンの電源を切り、フロッピーディスクドライブを接続する

増設したハードディスクドライブや PC カードなどの周辺機器などは取りはずしてください。

2 「標準システムインストール起動ディスク」をセットする

3 パソコンに CD-ROM ドライブを接続し、「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットする

4 キーボードの F キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

5 Y キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」のメッセージが表示されます。

6 Y キーを押す

処理を中止する場合は、N キーを押してください。
CD-ROM ドライブを自動認識し、システムのインストールが始まります。

7 表示されるメッセージに従って、システムのインストールを行う

付録

本製品の仕様

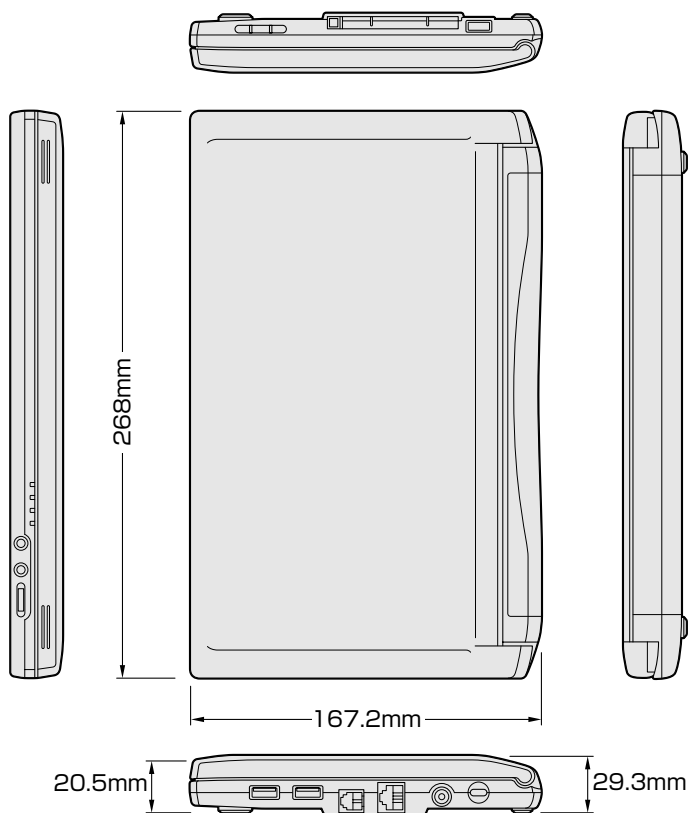
1 外形寸法図

＊数値は突起部を含みません。

268mm

167.2mm

20.5mm

29.3mm

2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。
本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。
モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

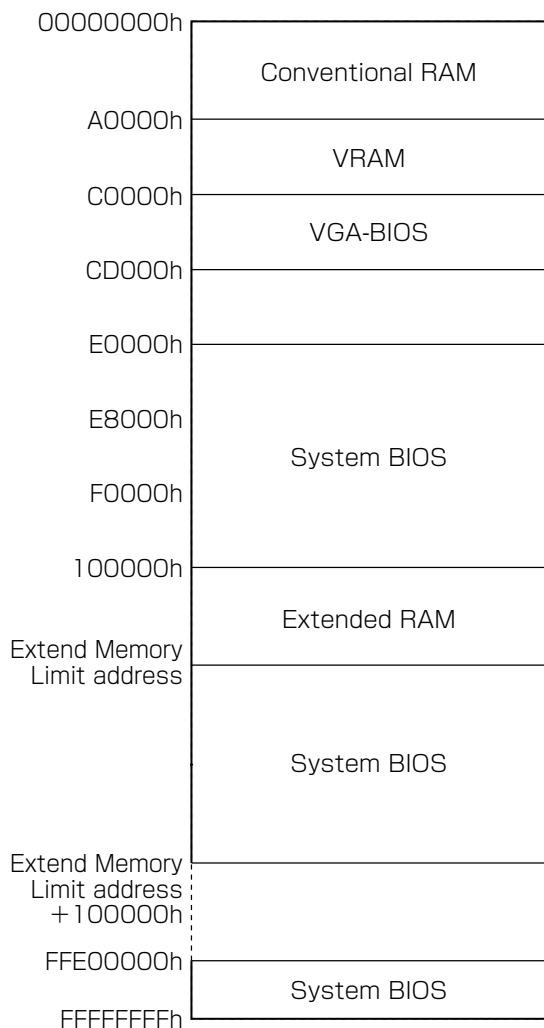
ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字	8 x 8	16/256K	
0*,1*		40 x 25字	8 x 14	16/256K	
2*,3*		80 x 25字	8 x 14	16/256K	
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
2+,3+		80 x 25字	8(9) x 16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6		640 x 200ドット	8 x 8	2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+		80 x 25字	8(9) x 16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
E		640 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10		640 x 350ドット	8 x 14	16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	60
12		640 x 480ドット	8 x 16	16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形 式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGAグラフィックス	640 x 480ドット	—	256/256K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	256/256K	
—		1024 x 768ドット	—	256/256K*1	
—		1280 x 600ドット	—	256/256K	
—		1280 x 1024ドット	—	256/256K*1	
—		1600 x 1200ドット	—	256/256K*1	60/75
—		640 x 480ドット	—	64K/64K	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1024 x 768ドット	—	64K/64K*1	
—		1280 x 600ドット	—	64K/64K	
—		1280 x 1024ドット	—	64K/64K*1	
—		1600 x 1200ドット	—	64K/64K*1	60/75
—		640 x 480ドット	—	16M/16M	60/75/85
—		800 x 600ドット	—	16M/16M	
—		1024 x 768ドット	—	16M/16M*1	60/75
—		1280 x 600ドット	—	16M/16M	60
—		1280 x 1024ドット	—	16M/16M*1	

*1：LCDで表示する場合、実際の画面（1280 × 600）内に、仮想スクリーン表示します。

3 メモリマップ

本製品では、メモリを次のように使用しています。

付録

4 I/Oポートマップ

本製品を、標準のハードウェア構成で使用した場合のマップです。

000h	DMAコントローラ #1
020h	IRQコントローラ #1
040h	タイマ
060h	KBC
070h	NMIマスクレジスタ
	RTC
080h	DMAページレジスタ
0A0h	IRQコントローラ #2
0C0h	DMAコントローラ #2
0F0h	NDP
100h	モデム
110h	なし
178h	
1F0h	HDC
1F8h	なし
200h	なし
220h	
240h	
260h	なし
278h	
280h	
2A0h	
2E8h	
2F0h	
2F8h	
300h	
376h	
378h	
380h	
3B0h	VGA
3BCh	
3C0h	VGA
3E0h	東芝PCカード インタフェース コントローラ
3E8h	
3F0h	HDC
3F6h	
400h	DMA Hiページレジスタ
480h	
4A0h	
530h	
538h	
604h	
60Ch	
E80h	
E88h	
F40h	
F48h	

5 DMA使用リソース

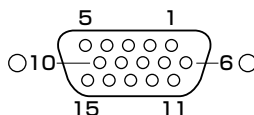
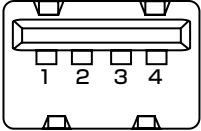
<table>
<tr><th>DMA</th><th></th><th>DMAC</th></tr>
<tr><td>0</td><td>なし</td><td rowspan="4">1</td></tr>
<tr><td>1</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>2</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>3</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>4</td><td>Cascade for CTLR1</td><td rowspan="4">2</td></tr>
<tr><td>5</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>6</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>7</td><td>なし</td></tr>
</table>

6 IRQ使用リソース

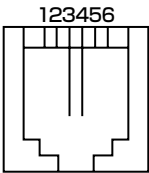
IRQ		PIC
0	タイマ（PIT）	#1
1	キーボード（KBC）	
2	IRQ8～15 PIC＃2入力	
3	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
4	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
5	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
6	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
7	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
8	RTC	#2
9	ACPI	
10	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
11	VGAコントローラ	
12	マウス	
13	NDP	
14	HDC	
15	空き	

各インタフェースの仕様

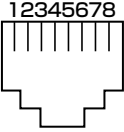
1 RGBインタフェース（ミニRGBケーブル）

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O
コネクタ図			
5　1 10　6 15　11 高密度D-SUB 3列15ピンメス			

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

2 USBインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

1 2 3 4

信号名：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 モデムインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	－	ノーコンタクト	
2	－	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	－	ノーコンタクト	
6	－	ノーコンタクト	
コネクタ図			

123456

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 LANインタフェース

ピン番号	信 号 名	意　味	信号方向
1	TX	送信データ（+）	O
2	-TX	送信データ（−）	O
3	RX	受信データ（+）	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ（−）	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	
コネクタ図			
12345678			

信号名：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

技術基準適合について

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

参照　省電力設定について ➲「4章 3 省電力ユーティリティを使う」

FCC information

Product name : Libretto L2/060TN

Model number : PAL2060TN

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- ❑ Reorient or relocate the receiving antenna.
- ❑ Increase the separation between the equipment and receiver.
- ❑ Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- ❑ Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING: *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by Toshiba is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, USB port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by Toshiba or parties authorized by Toshiba could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : Toshiba America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

EU Declaration of Conformity
EU Übereinstimmugserklärung
Déclaration de conformité UE
Declaración de conformidad de la UE
Dichiarazione di conformità UE
EU Försäkran om överensstämmelse

Toshiba declares, that the product:
PAL2060TN∗∗ conforms to the following Standards:
Toshiba erklärt, daß das Produkt:
PAL2060TN∗∗ folgenden Normen entspricht:
Toshiba déclarent que le produit cité ci-dessous:
PAL2060TN∗∗ est conforme aux normes suivantes:
Toshiba declaran que el producto:
PAL2060TN∗∗ cumple los sigulentes estándares:
Toshiba dichiara, che il prodotto:
PAL2060TN∗∗, é conforme alle seguenti norme:
Toshiba intygar att produkten:
PAL2060TN∗∗ överensstämmer med föijande normer:

Supplementary Information:	"The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC and the EMC Directive 89/336/EEC."
Weitere Informationen:	"Das Produkt entspricht den Anforderungen der Niederspannungs-Richtlinie 73/23/EG und der EMC Richtlinie 89/336/EG."
Informations complémentaires:	"Ce produit est conforme aux exigences de la directive sur les basses tensions 73/23/CEE et de la directive EMC 89/336/CEE."
Información complementaria:	"El Producto cumple los requisitos de baja tensión de la Directiva 73/23/CEE y la Directiva EMC 89/336/CEE."
Ulteriori informazioni:	"Il prodotto é conforme ai requisiti della direttiva sulla bassa tensione 73/23/EG e la direttiva EMC 89/336/EG."
Ytterligare information:	"Produkten uppfyller kraven enligt lägspãnningsdirektiver 73/23/EEC och EMC-direktiv 89/336/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is Toshiba Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項をお守りください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2001 年 8 月現在）

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域ではご使用になれません。ご注意ください。
内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムをご購入ください。
内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。
上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承願います。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

＊内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。

詳細について ➲《オンラインマニュアル》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem

- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your computer's user's guide.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines. Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can. In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by Toshiba Corporation or an authorized representative of Toshiba Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE: The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.
Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your computer's user's guide.

NOTICE: The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA: 1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the country selection is set to Australia. The use of other country setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner. To verify that the country is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the country permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ

Failure to set the modem to the Australia country setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.

- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.

- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:

  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

  b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.

  c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.

- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

  ATB0 (CCITT operation)
  AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  ATS0=0 (not auto answer)
  ATS6=4 (Blind dial delay)
  ATS7=less than 90 (Time to wait to carrier after dialing)
  ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b)caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.

- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.

- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.

- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへのご相談は、『東芝PCサポートのご案内』をご覧ください。

消耗品について

次の部品は消耗品です。

- バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）
  長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
  充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパックと交換してください。
- 時計用バッテリ（交換は有償です）
  消耗した場合は、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご連絡ください。

補修用性能部品について

本製品の補修用性能部品（本製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後6年間です。

5 廃棄について

バッテリパックについて

不要になったバッテリパックは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。

■ バッテリパック（充電式電池）の回収、リサイクルおよびリサイクル協力店に関するお問い合わせ先

社団法人 電池工業会
TEL／03-3434-0261
ホームページ／http://www.baj.or.jp

パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。
（本製品は、プリント基板の製造に使用するはんだには鉛が、LCD表示部に使用している蛍光灯には水銀が含まれています。）

■ パソコン内のデータの消去について

パソコン内のデータは、「削除」や「フォーマット」を行なっただけでは、特殊なソフトウェアなどの使用により、消したはずのデータが再生されることがあります。
パソコンの廃棄の際に、ハードディスクに保存されたデータの完全消去を行う場合には専門業者に依頼もしくは市販のソフトウェアなどをお使いになることをおすすめいたします（有償）。
本件に関するお問い合わせは、東芝PCダイヤル（巻末参照）にご連絡ください。

■ お客様登録の削除について

お客様登録されている製品を廃棄される場合は、「パソコンお客様ご登録係」までご連絡のうえ、登録の削除の手続きをお願いいたします。
パソコンお客様ご登録係
TEL／043-278-5997
受付時間／9：00～17：00（土・日、祝日、特別休日を除く）

6 アプリケーションのお問い合わせ先

＊2001年8月現在の内容です。

本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は、次のとおりです。各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれのお問い合わせ先までお問い合わせください。

アプリケーション名： Acrobat Reader／Fn-esse／Internet Explorer／Outlook Express／PC診断ツール／内蔵モデム用地域選択ユーティリティ
お問い合わせ先： 東芝（東芝PCダイヤル） ナビダイヤル（全国共通電話番号） TEL　：0570-00-3100 受付時間　：9:00〜19:00（祝日、12/31〜1/3を除く） お客様からの電話は全国6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。海外からの電話、携帯電話等で上記電話番号に接続できないお客様は、043-298-8780で受け付けております。 ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません（サポート料金は無料です）。 ナビダイヤルでは、NTT以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的にNTT回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。
アプリケーション名： 駅すぱあと
お問い合わせ先： 株式会社ヴァル研究所 ユーザーサポートセンター TEL　：03-5373-3522 受付時間　：10:00〜12:00、13:00〜18:00（土・日・祝日を除く） FAX　：03-5373-3523（24時間受付） E-mail　：support@val.co.jp（24時間受付） ＊ユーザー登録されたお客様が対象となります。 ホームページ　：http://www.ekiworld.net/
アプリケーション名： McAfee VirusScan
お問い合わせ先： 日本ネットワークアソシエイツ株式会社 テクニカルサポート窓口 TEL　：03-3379-7770 受付時間　：9:00〜17:00（土・日・祝祭日を除く） ホームページ　：http://www.nai.com/japan/

7 トラブルチェックシート

パソコンの操作について、困ったときは、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。
記述的なご質問、お問い合わせにお答えします。

東芝PCダイヤル

技術的なご質問、お問い合わせに電話でお答えします。
※受付時間／9：00 ～ 19：00
（祝日、12/31 ～ 1/3 を除く）

ナビダイヤル
全国共通電話番号 0570-00-3100

［電話番号はおまちがえのないよう、お確かめのうえ、おかけいただきますようお願いいたします］

お客様からの電話は全国 6 箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。

ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国 6 箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません（サポート料金は無料です）。

ナビダイヤルでは、NTT 以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的に NTT 回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。

次のようなお電話は、上記の電話ではお受けできません。
該当されるお客様は、043-298-8780（直通）をご利用ください。

- 海外からのお電話
- 携帯電話、PHS
- NTT 以外の電話事業者を経由しての接続（0088、0077 など）
- 企業で一部使用されている契約回線
- 企業の PBX で「0570」が使用できない設定になっているもの

- α-LCR ／ Super-LCR などの設定でご使用のお電話は、設定を解除することで「0570-00-3100」をご利用いただけます（解除方法はお手持ちの『電話機に付属の説明書』をご覧ください）。
- 「東芝 PC FAX 情報サービス」からも、商品情報、Q&A などの情報を FAX（G3 規格）で入手することができます。
- 「東芝 PC テクノセンタ」（東京／大阪）では対面相談を受け付けております（技術相談／作業は有償）

詳細について ➲『東芝 PC サポートのご案内』

付録

トラブルチェックシート

円滑に対応させていただくために、お問い合わせの前に下記の内容をご確認のうえ、お問い合わせください。

次の内容の他に、オペレーティングシステムのバージョンやCPUの種類について東芝PCダイヤルから聞かれた場合は、［PC診断ツール］の［基本情報の表示］ボタンをクリックしてご確認ください。

参照 PC診断ツール ➲《オンラインマニュアル》

【ご使用の環境について（使用中のパソコン環境）】

Q.1 ご使用になっているパソコン名（型名）は？
（本体や取扱説明書をご覧ください）

機種名：____________________

下記の情報をお尋ねすることがございます。

（製造番号：________、購入店：________、購入日：________など）

Q.2 ご使用になっているソフトウェア環境は？

Windows®2000など、お使いのシステムとアプリケーションをお知らせください

OS（システム名）：____________________

その他：____________________

Q.3 どのような症状が起こりましたか？

症状：____________________

Q.4 その症状はどのような操作をした後、発生するようになりましたか？

操作内容：____________________

Q.5 エラーメッセージなどは表示されましたか？

表示内容：

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？

□一度発生したが、その後発生しない

□電源を切らないと発生するが、電源を切って再起動すれば発生しない

□電源を切ってから再起動しても必ず発生する

□その他：

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作の後ですか？

□ある一定の操作をすると発生する

□どんな操作をしても発生する

□その他：

Q.8 インターネットや通信に関するご相談の場合

プロバイダ名：

使用モデム名：

使用回線：□内線発信アリ　□内線発信ナシ　□携帯　□ PHS
□ダイヤル回線　□プッシュホン回線　□ ISDN

Q.9 お問い合わせの内容が周辺機器の場合、ご使用になっている周辺機器名は何ですか？

機器名（製品名）：

メーカー名：

付録

さくいん

（記号）

（A）

（B）

（C）

（D）

（E）

（F）

（I）

（L）

（M）

（P）

（S）

（T）

（U）

（ソ）

（タ）

（ツ）

（テ）

（ト）

（ナ）

（ニ）

（ネ）

（ハ）

（フ）

（ヘ）

（ホ）

（マ）

（ミ）

（ム）

（メ）

（モ）

（ヤ）

（ユ）

（リ）

（ロ）